

埃及  
法律書

刑法草案

完

同法省記錄文庫  
第五百三十九號

第六號  
第一架  
第二

司法省記錄文庫  
第一一號

司法省  
第一九號  
寄贈圖書文庫

B60  
M1  
2

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



B870  
M3-11  
實作 齋 淨 誌

刑務司  
刑務課

B600  
M13  
2

法律書及  
刑法草案目次

第一卷

自第一條  
至第七拾五條

第一章 總規則

第二章 重罪ニ用フ可キ刑

第三章 輕罪及ヒ註誤ニ用フ可キ刑

第四章 輕罪ト重罪トニ通シ用フ可キ

附帶ノ刑

第五章 被告人ノ宥恕ヲ得又ハ罰ヲ受ケ

又ハ他人ノ犯罪ヲ擔當ス可キ場合

第二篇

自第七拾六條  
至第九拾六條  
公事ニ對スル重罪

輕罪及<sub>レ</sub>其刑

第一章 國ノ外部ノ安寧ヲ害スル重罪  
及<sub>レ</sub>輕罪

第二章 國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪  
及<sub>レ</sub>輕罪

第三章 納賄ノ罪

第四章 官金ヲ私スル罪及<sub>レ</sub>收斂ノ

罪

第五章 擅權ノ罪及<sub>レ</sub>職務ニ反クノ罪

第六章 官吏ノ人民ヲ虐スル罪

第七章 官命ニ抗スル罪官命ニ背ク  
罪官吏ニ不敬ヲ加フル罪

第八章 囚徒ノ逃亡及<sub>レ</sub>犯人ヲ隱匿  
スル罪

第九章 封印ヲ破毀スル罪及<sub>レ</sub>官署  
ニ在ル証書及<sub>レ</sub>物品ヲ奪フ罪

第十章 官職ヲ僭スル罪

第十一章 法教ノ自由ヲ妨クル罪

第十二章 記念ノ標識ヲ破壊スル罪

第十三章 電信ニ障礙ヲ為ス罪

第十四章 印刷及ヒ教育ニ及スル罪

第十五章 貨幣鑄造ノ罪

第十六章 贋造ノ罪

第三篇 第百九拾七條 平民ニ對スル重罪

第百三十條 及ヒ輕罪並ニ其刑

第一章 放火ノ罪

第二章 人ヲ殺ス罪、創傷及撃ノ罪

脅迫ノ罪

第三章 墮胎ノ罪、偽造ノ飲料ヲ賣

ル罪買主ノ保証ヲ要セス毒藥ヲ賣

ル罪

第四章 風俗ヲ乱ス罪

第五章 法ニ背キテ人ヲ逮捕シ及ヒ禁錮

スル罪幼年少年ノ者ヲ拐引スル罪

婦女ヲ拐引スル罪

第六章 偽証、偽誓ノ罪

第七章 讒訐誣罔、秘密漏告ノ罪

第八章 盜罪

第九章 倒産ノ罪及ヒ詐偽ヲ以テ財

ヲ奪フ罪

刑部  
刑部  
刑部  
刑部

第十章 背信ノ罪

第十一章 糶賣ノ自由ヲ妨クル罪及ヒ高

賣取引ニ於ケル詐偽ノ罪

第十二章 賭博及ヒ富場ヲ開ク罪

第十三章 滅盡破壊損害ノ罪

第十四卷 第三百三十一條  
第三百四十一條

註誤  
總規則

埃及法  
律書

刑法草案

第一卷

埃及法律書 刑法草案

第一卷 前加篇

第一章 総規則

第一條 法律上ニテ罰スル所ノ罪犯ニ三種アリ

第一 重罪

第二 輕罪

第三 註誤

刑名 第二條 重罪トハ法律上ニテ左ノ刑中ノ一ヲ

用ヒ罰スル罪犯ヲ云フ

死刑

無期ノ徒刑

有期ノ徒刑

無期ノ懲獄ノ刑

有期ノ懲獄ノ刑

無期ノ追放

諸般ノ位級ヲ得及ヒ各種ノ公務ヲ行フ推

ノ無期ノ剝奪

公権ノ剝奪

第三條 刑例

輕罪トハ法律上ニテ左ノ刑ヲ用ヒ罰

スル罪犯ヲ云フ

一週以上ノ禁錮

有期ノ追放

官職ノ罷黜

百ヒアストル以上ノ罰金

第四條

註誤トハ法律上ニテ一週間或ハ一週

以下ノ禁錮又ハ百ヒアストル以上ノ追放

キ、罰金ヲ用ヒ罰スル罪犯ヲ云フ

第五條 刑例

前教ニ記スル刑ハ法律上ニ定メタル

場合ニ因リ合シテ之ヲ言渡スヲアリ又ハ其



一箇ノミヲ言渡ス可キアリ

第六條 前ニ記スル刑ノ外特ニ刑法上ニ定メ

タル場合ニ於テハ左ノ刑ヲ言渡ス可キアリ

政府ノ監察ヲ受ケシムル事

民権及ヒ族権ノ剝奪

輕罪又ハ重罪ヲ犯スニ用ヒタル物品ノ

沒收

第七條 重罪ノ謀試ハ現ニ重罪ヲ犯シタルト

同視シ其刑モ亦之レニ同シ

第八條 輕罪ノ謀試ハ別段法律上ニ定メタル

四

場合ノ外之ヲ輕罪ト同視ス可カラズ且ツ之  
ト同一ノ刑ヲ用フ可カラス

第九條 重罪又ハ輕罪ヲ犯サント決シ及ヒ其

輕重罪ヲ犯スノ設備ヲ為シタルノミニテハ

罪犯ノ謀試アリト為ス可カラズ

第十條 重罪又ハ輕罪ヲ犯サント為シ既ニ之

ヲ行ヒ始メタル時ハ縱令本人ノ意ニ管セザ

ル景状ニ因リ之ヲ止メ又ハ之ヲ仕損スルト

重モ罪犯ノ謀試アリトス可シ

第十一條 再犯ノ罪アル時ハ其犯人ニ法律上

五

ニ定ムル刑ノ至重ノ限極ヲ言渡ス可ク又其  
刑ノ限極ヲ増シテ二倍ト為スヲ得可シ但  
シ別段法律上ニ定メタル場合ハ例外ナリト  
ス

第十二條 重罪ヲ犯シテ刑ヲ言渡サレシ者其

後更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル時又ハ一年  
以上ノ禁錮或ハ有期ノ追放ノ刑ヲ言渡サレ  
シ者其後更ニ輕罪ヲ犯シタル時ハ再犯ノ罪  
アリト看做ス可シ

第十三條 重罪ヲ犯シテ刑ヲ言渡サレシ者其

後更ニ位級ヲ得及ヒ公務ヲ行フ權ノ無期ノ  
剝奪又ハ公權ノ剝奪ヲ以テ罰ス可キ重罪ヲ  
犯シタル時ハ有期ノ繫獄ノ刑ニ処セラル可  
シ

第十四條 無期ノ追放ノ刑ヲ言渡サレシ者其

後更ニ無期ノ繫獄ノ刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ罰  
ス可キ重罪ヲ犯シタル時ハ無期ノ繫獄ノ刑  
ニ処セラル可シ

第十五條 無期ノ繫獄ノ刑ヲ言渡サレシ者其

後更ニ無期ノ徒刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ罰ス可

キ重罪ヲ犯シタル時ハ無期ノ徒刑ニ処セラ  
ル可シ

第十六條 無期ノ徒刑ヲ言渡サレシ者其後更  
ニ重罪ヲ犯シタル時ハ死刑ニ処セラル可シ

第十七條 重罪ヲ犯シタル者更ニ輕罪ヲ犯シ  
タル時ハ法律上ニ定メタル刑ノ外五年ヨリ  
少ナカラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ  
監察ヲ受ケシム可シ

第十八條 前數條ニ記シタル場合ノ外一箇ノ  
特ニ定マリタル罪ヲ犯シテ其刑ヲ言渡サレ

タル者其後十年内ニ更ニ以前ト全シキ罪ヲ  
犯シタル時ハ以前ノ刑ノ二倍ヨリ少ナカラ  
サル刑ヲ言渡サル可シ但シ其刑ハ法律上ニ  
定メタル刑ノ二倍ニ過ク可カラス

第十九條 重罪、輕罪註誤ハ之ヲ犯セシ時現ニ  
行ハル、法律ヲ以テ之ヲ罰ス可シ但シ確定  
ノ裁判言渡ノ前ニ其法律ヲ廢シ又ハ其刑ヲ  
輕減シタル時ハ格別ナリトス

第二十條 有期ノ刑ノ期限ハ以前ヨリ預防ノ  
為メ拘留セラレシ犯人ニ付ケハ刑ノ言渡ハ

確定トナリシ日ヨリ之ヲ集ス可シ然レモ犯  
人ノ裁判言渡ヲ控訴シ其刑期ヲ減ス可キノ  
言渡ヲ得タル時ハ下等裁判所ノ裁判言渡ノ  
日ヨリ其刑期ヲ算ス可シ

第二十一條 前數條ニ記シタル刑ヲ言渡スト  
虽モ其犯人ヲシテ損害ヲ被リシ者ニ其損害  
ヲ償ハシメ且ツ品物ヲ返還セシムルノ差支  
トナルトナカル可シ

第二十二條 罰金ト品物ノ返還及ヒ損失ノ償  
トヲ合シ言渡シタルトキ犯人ノ財産不足ト

ルニ於テハ其財産ヲ先ツ其返還及ヒ償補ニ  
充テ用ヒ猶殘餘アラハ罰金ヲ納スルニ充テ  
用フ可シ

第二十三條 犯人ニ罰金ヲ納シ及ヒ相手方ノ  
損失ヲ償ヒ且ツ其裁判所費用ヲ償フ可キノ  
言渡ヲ為ス時ハ必ス亦若干ノ期限間其犯人  
ヲ禁錮スルノ言渡 犯人罰金ヲ納シ及ヒ損失  
ヲ償フ為サ、ル時之ヲ禁  
錮スル言渡  
ヲ為スナリ

第二十四條 一箇ノ重罪又ハ輕罪ノ為メ刑ヲ  
言渡サレシ各人ハ連帶シテ罰金ヲ納メ且ツ

相手方ニ其損失及ヒ裁判所費用ヲ償フ可シ

第二章 重罪ニ用フ可キ刑

第二十五條 <sup>刑列</sup> 犯人ニ死刑ヲ言渡シタル時ハ其

昏類ヲ直ニニ埃及副王殿下ニ送呈シ副王殿下規則昏ニ定メタル如ク其死刑ノ者恕ヲ裁定ス可シ

第二十六條 死刑ヲ言渡セシヨリ八日内ニ副

王殿下ノ裁定アラサル時ハ当然其刑ノ者恕アリト者做ス可シ

第二十七條 死刑ヲ者恕シタル時ハ其刑ヲ変

シテ無期ノ徒刑ト為ス可シ

第二十八條 <sup>刑列</sup> 死刑ヲ言渡サレシ者ハ其信奉ス

ル法教ノ祭日ニ之ヲ刑ニ処ス可カラス

第二十九條 死骸ヲ埋葬ス可キ親族ノアラサ

ル時ハ其死骸ヲ犯罪人ノ同國人社中ニ引渡ス可シ

埋葬ヲ為スニ付テハ之レカ裝飾ヲ為ス可カラス

第三十條 若シ死刑ヲ言渡サレシ婦女懐妊ナ

リト述ハ真ニ其証アル時ハ出産ノ後迄其処

刑ヲ延ハス可シ

三十一條 犯罪人現ニ重罪ヲ行フヲ見ラレ  
又ハ自カラ重罪ヲ行フタリト述フル時ニ非  
ナレハ死刑ヲ言渡ス可カラス

第三十二條 無期ノ徒刑トハ犯人ノ兩足ヲ鉄  
鎖ヲ以テ繫キ政府ヨリ定メタル場所ニ於テ  
畢生間之ヲ駆役スル刑ヲ云フ

第三十三條 有期ノ徒刑トハ亦犯人ノ兩足ヲ  
鉄鎖ヲ以テ繫キ政府ヨリ定メタル場所ニ於  
テ三年ヨリ少ナカラス十五年ヨリ多カラサ

ル時間之ヲ駆使スル刑ヲ云フ○然レモ五年  
以下ノ徒刑人ハ其言渡アリシ地ニ於テ之ヲ  
駆役スルヲ得可シ

第三十四條 六十歳以上ノ老者又ハ婦女ニ徒  
刑ヲ言渡シタル時ハ鉄鎖ヲ以テ之ヲ繫ク可  
カラス獄舎内ニ於テ之ヲ駆役ス可シ

第三十五條 無期ノ繫獄ノ刑トハ政府ヨリ定  
メタル獄舎内ニ畢生間幽閉スル刑ヲ云フ

第三十六條 有期ノ繫獄ノ刑トハ政府ヨリ定  
メタル獄舎内ニ三年ヨリ少ナカラス十五年

ヨリ多カラサル時間幽閉スル刑ヲ云フ

第三十七條 繫獄ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ使

役セラル可シ

第三十八條 繫獄ノ刑ニ処セラレシ者ハ警察

規則ニ定メタル法方ニ循ヒ其獄舎内外ノ人

ト通問スルヲ得可シ

第三十九條 何人ニ限ラス有期ノ徒刑又ハ繫

獄ノ刑ニ処セラレシ者ハ其刑期ノ時間已シ

ノ權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ裁判所ノ允許ヲ受

ケレ上ニテ其財産ヲ支配スル為メ後見人一

名ヲ任ス可シ ○若シ本人ヨリ其後見人ヲ

選ムトナリ且ツ其本人ノ身上ヲ規定スル法

律ニ循ヒ後見人ヲ任シタルトナキ時ハ裁判

所ヨリ檢察官又ハ其管係人ノ求メニ從ヒ其

後見人ヲ任ス可シ ○其刑期ノ時間ハ獄舎規

則ニ定メタル所ヲ除クノ外後見人ヨリ本人

ニ其財産入額ヲ渡ス可カラス又官署ヨリ其

労働ニ因リ得タル金高ヲ渡ス可カラス ○其

刑期ノ終リタル後本人ニ其財産ヲ返シ後見

人具支配ノ算計ヲ為ス可シ

刑罰

第四十條 無期ノ追放トハ政府ヨリ定メタル

地ニ犯人ヲ徙シ畢生間其地ニ居ラシムルノ

刑ヲ云フ但シ犯人已レト共ニ其家族ヲ徙ス

可キト願ヒ家族ノ之ヲ承諾スル時ハ其願

ノ旨ヲ許ルヌ可シ

第四十一條 諸般ノ位級ヲ得及ヒ各種ノ公務

ヲ行フ推ノ剥奪トハ職務ノ輕重ヲ問ハス官

ノ公務ニ任用セラレ又ハ官ヨリ事務ノ委任

ヲ受ケ又ハ級位ヲ授ケラレ又ハ俸給ヲ受ケ

又ハ表勲ノ裝飾ヲ用フルノ推ヲ期限ヲ定メ

ス剥奪スル刑ヲ云フ○此刑ヲ言渡ス時ハ犯

人ノ級位ヲ奪ヒ又ハ公務ヲ退ケ又ハ給料及

ヒ養老金ヲ奪フ可シ

第四十二條 前條ニ記スル刑ヲ本刑ト為シテ

言渡サ、ル時ハ重罪ニ付キ言渡シタル他ノ

刑ニ附加シタルモノト為ス可シ

第四十三條 公權剥奪ノ刑ハ左ノ如シ

第一 第四十一條ニ記シタル如ク諸般ノ

級位及ヒ公務ヲ永久剥奪スル事

第二 民權及ヒ政權ヲ剥奪スル事即チ會



議ノ席ニ於テ投言ヲ為スノ權國ノ行政  
事務又ハ犯人所屬ノ社中ニ於テ公務ヲ  
行ヒ或ハ種類ノ如何ヲ問ハス職務ヲ行  
フ權ヲ剝奪スル事

第三 学校ニ於テ教師又ハ監督ノ職ニ任  
用セラル、ノ權ヲ剝奪スル事

第四 人民ノ代理者、邑會議員、陪審、鑑定人  
トナルノ權、証各類ヲ記スル時証人トナ  
ルノ權裁判役ノ心得ノ為メノ外裁判所  
ニ於テ証ヲ申述フルノ權、訴訟ニ於テ名

代人トナルノ權等ヲ剝奪スル事

第五 後見人又ハ管財人トナルノ權ヲ剝  
奪スル事

第六 兵器ヲ帶用スルノ權ヲ剝奪スル事

第四十四條 犯人ニ無期又ハ有期ノ徒刑或ハ  
無期ノ懲獄ノ刑或ハ無期ノ追放ノ刑ヲ言渡  
ス時ハ当然其公權ヲ剝奪ス可シ○公權剝奪  
ノ刑ヲ本刑ト為シ言渡ス時ハ三年ニ過キサ  
ル時間ノ禁錮ノ刑ヲ附加ノ刑ト為シテ言渡  
ス可シ

刑例  
第四十五條

死刑、無期又ハ有期ノ徒刑、無期ノ  
懲獄ノ刑、無期ノ追放ノ刑、級位ヲ得及ヒ公務  
ニ任スルノ權ヲ剝奪スル刑、公權剝奪ノ刑、  
言渡各ハ之ヲ仏蘭西語、意大利語、埃及語ニ記  
シテ其刑ヲ言渡セシ裁判所々在ノ州ノ首邑  
中最モ著ルキ場所重罪ヲ犯セシ地方及ヒ地  
刑ノ地方中最モ著ルキ場所、犯人住所ノ地ノ  
最モ著ルキ場所ニ之ヲ貼附ス可シ○又右言  
渡各ノ寫ハ前ニ記セシ各地裁判所ノ懸帖ニ  
貼附シ且ツ州ノ鎮台官署及ヒ警察總長官署

門前ニ貼附ス可シ

第三章 輕罪及ヒ註誤ニ用フ可キ刑

第四十六條 禁錮ノ刑トハ裁判言渡ニ定ム可

キ時間官ノ獄舎中ニ禁錮スル刑ヲ云フ  
註誤ニ付テハ其刑期ヲ二十四時

ヨリ少ナカラス一週ヨリ多カラスト為シ輕  
罪ニ付テハ八日ヨリ少ナカラス三年ヨリ多  
カラスト為ス可シ但シ犯人ヲ預防ノ為メ拘  
留セシ時ノ外ハ之ヲ獄舎ニ入シタル時ヨリ  
其刑期ヲ算フ可シ

犯人

第四十八條 犯人ヲ預防ノ為メ拘留シタル時

ハ裁判言渡ノ日ヨリ其刑期ヲ算フ可シ但シ  
學二十條ニ記シタル規則ヲ通用スルニ差支

トナルヲナカル可シ

第四十九條 囚徒ハ政府ヨリ定メタル規則ニ

循ヒ各其身体ト工技トニ相應セシ労働ヲ為  
サシム可ク且ツ其労働ヨリ得ル所ノ利益中  
其者ノ所得ト為ス可キ部分ハ政府ヨリ之ヲ

刑例  
定ム可シ

第五十條 有期ノ追放トハ犯人ヲ其住所ヨリ

行政規則ヲ以テ定メタル地ニ彼レ居ラシム  
ル刑ヲ云フ但シ其刑期ハ三月ヨリ少ナカラ  
ス三年ヨリ多カラサル可シ

第五十一條 其刑期ハ第二十條ノ規則ニ循ヒ

犯人ヲ預防ノ為メ拘留シタル時ハ裁判言渡  
ノ日ヨリ之ヲ算ハ又犯人ノ逮捕セラレ或ハ  
自訴シタル時ハ其日ヨリ之ヲ算フ可シ

第五十二條 若シ犯人自己ノ意ヲ以テ追放メ

地ニ赴ク時ハ其地ノ官署ニ犯人ノ届ケ出テ  
タル時ヨリ其刑期ヲ算フ可シ

第五十三條 官職ノ罷黜トハ犯人ノ公務ヲ黜

ケ且ツ其公務ニ附加セシ利益ヲ奪フヲ云フ

○其公務ヲ禁止スル期限ハ三月ヨリ少ナカ

ラス六年ヨリ多カラズ且ツ其期限間ハ犯人

ニ公務ヲ任ス可カラズ又俸給ヲ與フ可カラ

ス○又此刑ヲ言渡サレシ時現ニ公務ニ任セ

サル者ハ其刑期ノ時間公務ニ任ス可カラズ

又俸給ヲ受ク可カラズ

第五十四條 罰金トハ犯人ヲシテ誣誤ニ付ケ

ハ十<sup>百</sup>ピアストルヨリ少ナカラズ百<sup>百</sup>ピアスト

ルヨリ多カラズ輕罪ニ付テハ百<sup>百</sup>ピアストル

ヨリ少ナカラズ一<sup>百</sup>ピアストルヨリ多カラサレ

金高ヲ官ニ納レシムル刑ヲ云フ

第五十五條 犯人ヲシテ官ニ罰金及ヒ費用高

ク納レシムル為メ其犯人ヲ禁錮スルハ二十

四<sup>百</sup>ピアストルノ金高毎ニ二十四時ト定ム但シ

其刑期ハ二十四時ヨリ少ナキ<sup>百</sup>ナク三月ヨ

リ多キ<sup>百</sup>ナカル可シ

第五十六條 犯人ニ罰金及ヒ費用高ヲ納レシ

ム可キ言渡ヲ為シ犯人猶之ヲ納レサル時ハ

官ヨリ其催促書ヲ送り其時ヨリ五日ノ後ニ  
非サレハ犯人ヲ禁錮ス可カラス

第五十七條 犯人ノ禁錮シタルト虽モ犯人ニ

其罰金ヲ納ム可キ資産アリ又ハ犯人其禁錮  
ノ後ニ其資産ヲ得タル時ハ其罰金ヲ納ム可  
キ義務ヲ免レシム可カラス

第四章 輕罪ト重罪トニ通シ用フ可

キ附帶ノ刑

第五十八條 輕罪裁判所ハ法律上ニ定メタル

場合ニ於テハ前ニ記セシ本刑ノ外第四十四

輕人

條ニ記シタル刑ノ全部又ハ一部ヲ言渡ス

ヲ得可シ

第五十九條 重罪ヲ犯シタルニ因リ有期ノ徒

刑ヲ言渡サシ又ハ徒刑ニ代ヘテ有期ノ懲獄

ノ刑ヲ言渡サシタル者ハ其刑期ノ終リニ後

当然政府ノ監察ヲ受ケシム可シ

第六十條 又重罪及ヒ輕罪ニ付キ法律上ニ定

メタル場合ニ於テハ政府ノ監察ヲ受ケシム

ルノ刑ヲ言渡スヲ得可シ

第六十一條 犯人ヲシテ政府ノ監察ヲ受ケシ

ムル時ハ政府ヨリ犯人ニ其罪ヲ犯セシ州内  
ニ住スルヲ禁シ又ハ人口五千人以上ノ府内  
ニ住スルヲ禁ス可シ○又其犯人ハ其居住セ  
ントスル地ト其旅行ノ路筋トヲ陳述シ之ヲ  
其旅行免状ニ記ス可シ○其犯人ハ其赴カン  
トスル地ニ到着セシヨリ二十四時内ニ其地  
ノ官署ニ到着ノ旨ヲ届ク可シ○其犯人其住  
居ノ地ヲ轉セント欲スル時ハ三日前ニ其地  
ノ官署ニ其赴カントスル地ヲ届出テ更ニ新  
ナル旅行免状ヲ受取ル可シ若シ此規則ニ背

ク時ハ一年ニ過キサル時間禁錮ノ刑ニ処セ  
ラル可シ○如何ナル犯人ト虽モ別段法律上  
ノ定メアル場合ニ非サレハ政府ノ監察ヲ受  
ケシム可カラス

第五章

被告人ノ宥恕ヲ得又ハ罰ヲ

受ケ又ハ他人ノ犯罪ヲ擔当ス可キ場

合

犯死罪

第六十二條

被告人幼年ニシテ自カラ其所為

ノ善惡ヲ辨知スル能ハサル時ハ之ヲ裁判ス  
ルヲナカル可シ

若也

第六十三條

若シ裁判席ニ呼出サレシ被告人十六歳以下ナル時又ハ其齡不分明ニシテ其實事ヲ取調ヘシニ因リ十六歳以下タル可キノ言渡アル時ハ後ノ數條ニ循ヒ之ヲ処置ス可シ

第六十四條

其被告人故意ニ非スレテ罪ヲ犯シタルノ言渡アル時ハ其罪ヲ宥恕ス可シ然レモ裁判所ニ於テ其犯人ヲ父母ニ引渡シ又ハ相当ナル人ニ預ケ又ハ公私ノ農業局ニ預ケ其齡二十歳ニ至ル迄ノ間特ニ期限ヲ定メ

其犯人ヲ管守セシム可シ但シ犯人ノ年齢不

分明ナル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ見積ル可シ

第六十五條

十六歳以下ノ幼者故意ヲ以テ罪ヲ犯シタルノ言渡ヲ受ケ其刑ノ死刑無期ノ徒刑無期ノ繫獄ノ刑無期ノ追放ノ刑ニ当ル可キ時ハ五年ヨリ少ナカラズ十年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第六十六條

若シ前條ノ場合ニ於テ其刑ノ有期ノ徒刑又ハ有期ノ繫獄ノ刑ニ当ル可キ時ハ其刑期ノ四ノ一ヨリ少ナカラズ三ノ一

一ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル  
可シ○前條ト此條トノ場合ニ於テハ五年ヨ  
リ少ナカラス十年ヨリ多カラサル時間政府  
ノ監察ヲ受ケレムルヲ得可シ○若シ又右  
ノ犯人、公権剝奪ノ刑ヲ言渡サル可キ時ハ六  
月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間  
禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第六十七條 前數條ニ記シタル場合ニ於テ右  
ノ犯人ニ十六歳以上ノ同罪人アラサル時ハ  
輕罪裁判所ニテ其罪ヲ裁判ス可シ

第六十八條 若シ又十六歳以下ノ者輕罪ヲ犯  
シタルノ詎ヲ受ケ故意ヲ以テ罪ヲ犯シタル  
ノ言渡アル時ハ十六歳以上ノ犯人ニ言渡ス  
可キ刑期ノ三ノ一ニ過キサル時間禁錮ノ刑  
ニ処セラル可シ

第六十九條 又被告人罪ヲ犯シタル時狂癲ノ  
病ニ罹リシ証アル時ハ法律上ニ定メタル処  
刑ヲ免ル可シ

第七十條 重罪又ハ輕罪ヲ犯セシ後狂癲ノ病  
ニ罹リタル犯人ハ暫ク其裁判ヲ延ハス可シ



加致す

第七十一條

又已レ

意ニ出テス人ノ為メニ

脅迫セラレ罪ヲ犯シタルノ証アル者ハ法律

上ニ定ムル処刑ヲ免ル可シ○法律上ニ脅迫

ト稱スルハ犯人ノ抗敵ス可カラサル暴力ヲ

指シ云フ故ニ父母ノ其子ニ指令シ又ハ家長

ノ其僕婢ニ指令スルカ如ク唯此人ノ彼人ヲ

畏敬シ其命ニ後ヒ罪ヲ犯セシハ之ヲ人ノ為

メニ脅迫セラレ罪ヲ犯シタルト為ス可カラ

ス

第七十二條

犯人ヲ刑ニ処スルニ付ケハ男女

ノ別ヲ立ツ可カラス然レモ婦女ノ為メニハ

其処刑ノ種類ニ因リ本人ノ景状ニ注意ス可

此礼

第七十三條

重罪又ハ輕罪犯ノ同謀者ハ其本

人ト同一ノ刑ニ処セラレ可シ但シ法律上ニ

別段ノ規則アル時ハ此例ニ非ス

亭

七十四條 本人ニ贈遺或ハ約束ヲ為シ或ハ

威嚇、詭計ヲ用ヒ罪ヲ犯サシメタル者又ハ本

人ヲ指令シ或ハ権柄ニ憑リ其罪ヲ犯サシメ

タル者

犯罪ノ用ニ供スルヲ知テ兵器、器具及ヒ其他  
總テ犯罪ヲ便ナラシムル諸件ヲ給典シタル  
者

犯罪ノ事ヲ知テ本人ヲ助ケ其犯罪ノ設備ヲ  
為シ又ハ犯罪ヲ容易ナラシメ或ハ犯罪ヲ成  
就セシメタル者

贓物タルヲ知テ之ヲ隱匿セシ者

此等ノ者ハ輕重罪ノ同謀者ナリト者做ス可  
シ

學ハ七十五條 輕重罪ノ同謀者其本人ノ罪ヲ犯

スニ方リ其罰ヲ重劇ナラシム可キ所為ヲ行  
フニ參セサル時ハ本人ト全シク其重劇ノ罰  
ヲ受クルトナカル可シ但シ本人ヲ挑唆シテ  
罪ヲ犯サシメタル同謀者ハ例外ナリトス

埃及  
法律書

刑法草案

第ニ篇 公事ニ對スル重罪輕罪及ヒ

其刑

第一章 國ノ外部ノ安寧ヲ害スル

重罪及ヒ輕罪

第七十六條 何人ニ限ラス敵ノ兵隊中ニ加ハ  
リ國ニ對シテ兵器ヲ弄スル本國人ハ死刑ニ  
処ス可シ

第七十七條 外國政府又ハ其官吏ヲシテ本國  
ニ對シ敵對ヲ為サシムル為メ又ハ兵ヲ構セ  
シムル為メ又ハ其敵對戰鬥ヲ為スノ方便ヲ

得セシムル為ノ其外國政府又ハ其官吏ト陰謀ヲ企テ或ハ通問ヲ為シタル本國人ハ死刑ニ処ス可シ但シ其陰謀又ハ通問ノ為メ戦闘又ハ敵對ノ現ニ生シタルト否トヲ問フナシ

第七十八條 敵ノ本國領地内ニ進入スルヲ容易ナラシメ又ハ敵ニ本國ニ属スル都府、城寨、陣營、港口、倉庫、武庫、船舶ヲ渡シ又ハ敵ニ兵卒、金銀、食料、兵器、彈藥ノ資助ヲ給與シ又ハ兵卒ノ本國君主ニ對スル忠誠ノ心ヲ誘惑シ或ハ

其他ノ方法ヲ以テ本國領地内ニ敵兵ノ進撃ヲ助ク可キ為メ敵ト共ニ陰謀ヲ企テ又ハ通問シタル本國人ハ死刑ニ処ス可シ

第七十九條 敵國ノ臣民ト通問スルニ付キ前條ニ記シタル重罪中ノ一箇ヲ目的ト為スナレト虽モ本國又ハ本國ノ與國ノ兵事及ヒ政事ノ模様ニ付キ害トナル可キ報知ヲ敵國ニ為シタル事ノ生スルニ至ル時ハ其通問ヲ為シタル者其罪ノ輕重ニ准シ有期ノ繫獄ノ刑ニ處セラレ可シ○又政府ノ軍畧ヲ敵ニ知

ラシメントスル意ヲ以テ間諜ノ所為ヲ行ヒ  
敵國ノ臣民ト通問報知ヲ為シタル者ハ其罪  
ノ輕重ニ准シ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ○  
又右間諜ノ所為ヲ本國ノ兵隊中ニ於テ行フ  
タル者ハ兵律ニ循ヒ死刑ニ處スルヲ得可  
シ  
第八十條 本國ノ官吏又ハ其他ノ者其職掌又  
ハ其身分ニ因リ政府ノ商議或ハ出兵ノ機密  
ヲ委任セラレ又ハ其機密ヲ知ルヲ得タル  
時政府ノ命ヲ受ケス惡意ヲ以テ其機密ヲ外

國又ハ敵國ノ官吏ニ洩漏セシニ於テハ死刑  
ニ処セラル可シ但シ自カラ親ク外國又ハ敵  
國ノ官吏ニ告ケタルト他人ノ介入ヲ以テ告  
ケタルトテ問フナシ

第八十一條 本國ノ官吏其職掌ニ因テ城塞武  
庫、港口ノ圖面ヲ預リ其圖面ヲ敵國又ハ敵國  
ノ官吏ニ渡セシ時ハ三年ヨリサナカラス十  
五年ヨリ多カラサル時間徒刑ニ処セラル可  
シ又政府ノ允許ヲ受ケス外國、中立國、與國ノ  
官吏ニ右圖面ヲ渡シタル時ハ一年ヨリサナ

カラス三年ヨリ考カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
処セラル可シ

第八十二條 敵國ノ間諜者タルヲ知テ自カラ  
之ヲ匿クシ又ハ人ヲシテ之ヲ匿クサシメタ  
ル本國人ハ無期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第二章 國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪  
及ヒ輕罪

第八十三條 何人ニ限ラス本國人民ヲ煽動シ  
テ政府ニ抗敵セシメント謀リ現ニ其暴行ヲ  
為レ又ハ其暴行ヲ為シ始メタル者ハ死刑ニ

処セラル可シ

第八十四條 國民ヲシテ互ニ抗敵セシメ内亂  
ヲ起サント為シ又ハ一箇ノ地方或ハ數箇ノ  
地方ニ於テ亂妨、虐殺、掠奪ヲ為サシメ内亂ヲ  
起サント為ス目的ヲ以テ暴行ヲ為スヲ謀リ  
タル者現ニ其暴行ヲ為シ又ハ之ヲ為シ始メ  
タルニ於テハ死刑ニ処セラル可シ

第八十五條 兇徒ノ羣聚シテ前二條ニ記シタ  
ル重罪ヲ行ヒ又ハ行ハント試ニ為シタル時  
ハ其群聚ヲ指揮シ或ハ之ヲ煽動セシ者ヲ死

刑ニ処ス可ク何レノ地ニ於テ其捕縛セラレシ  
ヲ問フ一ナシ又其他ノ者ハ右聚合ノ地ニ於  
テ捕縛セラレタルハ其罪ノ輕重ニ准シ三  
年ヨリ少ナカラス十五年ヨリ多カラサル時  
間徒刑ニ処セラル可シ

第八十六條 数人會合レテ第八十三條及七号  
八十四条ニ記スル重罪ヲ行ハント謀リ互ニ  
其謀計ヲ協議決定シテ現ニ暴行ヲ為スニ至  
ラスト虽モ之レカ設備ノ所ヲ行フタル  
時ハ其犯人無期ノ追放ノ刑ニ処セラル可シ

又右ノ謀計ヲ協議決定シタルノニニテ其暴  
行ノ設備ノ所ヲ行ハサル時ハ其犯人  
有期ノ懲獄ノ刑ニ処セラル可シ

又右ノ謀計ヲ行ハント述フル者アリテ其協  
議決定ヲ為サハル時ハ之ヲ述ヘシ者一年ヨ  
リ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ処セラル可シ

第八十七條 何人ニ限ラス政府ノ命令ナク又  
ハ正當ノ原由ナク犯罪ノ目的ヲ以テ一軍、一  
隊、一船隊、兵船、城寨、陳營、港口、都府ヲ指揮スル



職ヲ執リシ者

政府ノ命ニ背キ兵ニ管係シタル指揮ノ職ヲ保持スル者

政府ヨリ軍隊ヲ解散ス可キ命ヲ受ケシ後正当ノ原由ナク其軍隊ヲ屯聚シ置キタル指揮官

此等ノ者ハ死刑ニ処セラル可シ

第百八十八條 常備兵又ハ備警兵ヲ指揮スル者政府ノ命シタル兵卒招募ヲ妨クル為メ其指揮スル兵ヲ用フルヲ求メ或ハ之ヲ指令セシ

時ハ無期ノ追放ノ刑ニ処セラル可シ

又其求メ又ハ指令ニ回リ現ニ政府ノ命シタル兵卒招募ヲ妨ケタル時ハ其犯人死刑ニ処セラル可シ

右不正ノ指令ニ順聽セシ士官又ハ下等指揮官ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百八十九條 何人ニ限ラス思定ノ悪意ヲ以テ政府ニ屬スル建築物軍用品ノ倉庫及ヒ其他ノ物件ヲ焚毀シ又ハ毀壞シタル者ハ死刑ニ処セラル可シ

第九十條 何人ニ限ラズ政府ニ屬スル土地或  
ハ家屋ニ押入り又ハ其財貨ヲ掠奪シ又ハ衆  
庶共通ノ不動産ヲ掠奪スル為メ又ハ此等ノ  
犯罪人ヲ防制スル公ケノ兵ニ抵抗スル為メ  
群聚シタル兇徒ノ頭目トナリ或ハ其群聚中  
ニ於テ指揮役ヲ行ヒシ者ハ死刑ニ処セラル  
可シ○右群聚中ニ在リテ指揮役ヲ行フナ  
ク又其他ノ職務ヲ行フナク其群聚ノ場所  
ニ於テ逮捕セラレシ者ハ有期ノ徒刑ニ処セ  
ラル可シ

第九十一條 遠近ノ別ナク前條ニ記シタル兇  
徒ノ群聚ヲ誘導シ又ハ其群聚ヲ編成シ又ハ  
故意ヲ以テ其群聚ニ兵器彈藥及ヒ其他犯罪  
ノ器具ヲ給與シ又ハ之レニ其食料ヲ送り又  
ハ其他如何ナル方法ヲ問ハス其群聚ノ誘導  
者或ハ指揮者ト惡意ヲ以テ通問シタル者又  
ハ其群聚ノ兇行ヲ為スヲ知り脅迫セラレシ  
ニ非スシテ之ヲ其家屋隱匿ノ場所聚會場ヲ  
貸與シタル者ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第九十二條 右群聚中ノ者指揮ノ職又ハ其他

ノ職務ヲ行フナク文武官吏ノ叱責ニ從ヒ  
直ニ其黨ヲ離脱セシ時又ハ文武官吏ノ叱  
責ノ後ト虽モ群聚ヲ為シタル場所外ニ於テ  
抗拒ヲ為スナリ且ツ兵器ヲ携フルナク  
逮捕セラレシ時ハ政府ノ命ニ抗スル所行ヲ  
為ス刑ヲ受タルナカル可シ○然ル時ハ右  
ノ者其自カラ行フタル犯罪ノミノ罰ヲ受ク  
可シ然レモ右ノ者ハ五年ヨリ少ナカラス十  
年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシ  
ムルナラ得可シ

第九十三條 又右群聚中ノ者政府ノ命ニ抗ス  
ル重罪ヲ未タ行フニ及ハス且ツ逮捕ノ未タ  
初マラサル前ニ官吏ニ其犯罪ノ首謀煽動者  
附從等ヲ告知セシ時又ハ逮捕ノ既ニ初マリ  
後其首謀煽動者附從等ヲ捕獲スルヲ助ケシ  
時ハ右重罪ヲ犯シタル刑ヲ免ル可シ○然レモ  
右ノ者ハ二年ニ過キサル時間政府ノ監察ヲ  
受ケシムルナラ得可シ

第九十四條 何人ニ限ラス衆人ノ聚合スル地  
ニ於テ言詞ヲ發シ又ハ貼附書ヲ貼附シ又ハ

書冊ヲ配分シテ人民ヲ煽動シ此章ニ記スル  
重罪ヲ犯サシメタル者ハ其重罪ノ首謀者タル  
刑ヲ受ク可シ○然レモ其煽動ノ實際ニ行  
ハレサル時ハ無期ノ追放ノ刑ニ處セラレ可  
シ

第二章 納賄ノ罪

第九十五條 官吏又ハ行政及ヒ司法ノ職ニ任  
セシ者其正不正ヲ論セス故サラニ其職務上  
ノ事ヲ為スタメ又ハ故サラ其職務上ノ事ヲ  
制止スルヲメ人ヨリ為ス所ノ約束ヲ兼諾シ

又ハ贈物ヲ受ケタル時ハ之ヲ称シテ納賄ノ罪ト云フ

第九十六條 又動産或ハ不動産ヲ其相当ノ價

ヨリ更ニ貴ク又ハ更ニ低價ニ賣買シ又ハ贈  
賄者ト納賄者ト契約ヲ結ビ官吏又ハ行政及  
ヒ司法ノ職ニ任スル者ノ為メ格外ノ利益ヲ  
得セシメシ時ハ亦贈賄ノ罪アリトス

第九十七條 官吏又ハ行政及ヒ司法ノ職ニ任

スル者ニ賄賂ヲ贈リシ者等級職務ノ如何ヲ  
問ハス賄賂ヲ納レタル官吏又ハ行政及ヒ司  
法ノ職ニ任スル者贈賄者ト官吏トノ間ニ入

リ其媒ヲ為ス者ハ有期ノ懲獄ノ刑ニ処セラレ且ツ其等級及ヒ職務ヲ奪ハル可シ

第九十九條 賄賂ト為シタル品物又ハ其價額

ハ贈賄者ヨリ之ヲ官ニ没収シ納賄者ハ其價ニ当ル可キ罰金ヲ言渡サル可シ

第一百條 又約束ヲ以テ賄賂ヲ授受セシ時ハ贈賄者

及ヒ納賄者共ニ其約束ノ高ニ當ル罰金ヲ言渡サル可シ

第一百一條 官吏又ハ行政及ヒ司法ノ職ニ任セ

シ者ニ暴行脅迫ヲ加ヘ強テ不正ノ所行ヲ為サシメ又ハ其当然為ス可キ所行ヲ妨沮セシメシ者ハ其罪贈賄者ト同シク第九十八條ニ記シタル刑ニ処セララル可シ

第一百二條 第九十七條ノ場合ニ於テ故サテ約

束ヲ承諾シ又ハ贈遺ヲ受ケ又ハ格別ノ利益ヲ得タル者賄賂ノ媒ニ因ラサル時ハ一年間

禁錮ノ刑ニ処セラレ且ツ前ニ記シタル如ク

算計セシ罰金ヲ言渡サル可シ

第一百三條 重罪ヲ断定スル裁判役又ハ陪審ノ

賄賂ヲ受ケシ時ハ其重罪被告人ニ益スル為  
メノ賄賂タルト其被告人ヲ害スル為メノ賄  
賂タルトヲ問ハス其裁判後又ハ陪審ハ罰金  
ノ外五年ヨリケナカラサル時間繫獄ノ刑ニ  
処セララル可シ

第百四條 人ヨリ賄賂ヲ贈ラント為スト或ハ  
官吏ノ之ヲ受ケス又暴行脅迫ヲ加フルト或  
ハ其効ノアラサル時ハ其犯人一年間禁錮ノ  
刑ニ処セラレ且ツ六年間諸般ノ公務等級給  
祿、養老金等ヲ得ルノ權ヲ奪ハル可シ

第百五條 何人ニ限ラズ已レノ生命、名譽、財産、權  
利ニ付キ不正ノ脅迫ヲ受ケ之ヲ免レシカ為  
メ已ムヲ得ス官吏又ハ公務ニ任スル者ニ贈  
遺又ハ約束ヲ為シ其脅迫ノ原由止ミタル時  
直チニ右ノ旨ヲ司法官吏ニ報告セサル者ハ  
其贈遺又ハ約束ノ為メ現ニ其益ヲ得タルニ  
於テハ之ヲ贈賄ノ刑ニ処スルヲ得可シ然  
レモ其者右ノ期限ニ司法官吏ニ報告シタル  
時又ハ其期限ノ後ト或モ賄賂ニ因リ現ニ其  
益ヲ得サル前ニ裁判所ニ上告シタル時ハ其

刑ヲ免ル可シ

第百六條 前條ノ場合ニ於テ脅迫ヲ以テ賄賂  
ヲ已レニ納レシメ又ハ約束ヲ為サシメタル  
者ハ勿賄ノ刑ニ処セラル可シ

第百七條 前ニ記シタル目的ヲ以テ官吏又ハ  
公務ニ任スル者ニ贈遺又ハ約束ヲ為サント  
スル者アル時其官吏又ハ公務ニ任スル者直  
チニ其由ヲ司法官吏ニ報告セス現ニ其贈物  
ヲ納レ又ハ約束ヲ承諾シタルニ於テハ納賄  
ノ罪アルニ因リ其刑ニ処セラル可シ

第百八條 納賄ノ罪ヨリ更ニ重剝ノ罪ヲ犯テ  
シムル目的ヲ以テ賄賂ヲ贈リシ時ハ其賄賂  
ヲ納レテ右ノ重罪ヲ犯シタル者ハ其納レタ  
ル贈物ノ價ニ当ル金高ヲ徵收セラレ且ツ贈  
賄者及ヒ其媒酌人ト同レク其重罪ノ首謀及  
ヒ其同罪人ノ受ク可キ刑ニ処セラル可シ

第百九條 第百三條ノ場合ニ於テ被告人ノ受  
ケタル刑、納賄ノ刑ヨリ更ニ重キ時ハ納賄者  
モ亦重キ刑ニ処セラル可シ

第百十條 一方ヲ曲庇シ又ハ一方ヲ枉疾シ裁  
定ヲ為シタル裁判役又ハ行政官吏ハ諸般ノ  
等位及ヒ公務ヲ奪ハル可シ

第四章 官金ヲ私スル罪及ヒ收斂ノ罪

第百十一條 官金又ハ官物ヲ預カル者之ヲ私  
スル時ハ其私セシ高ノニ倍ヲ官ニ還シ且ツ  
五年ヨリサナカラサル時間懲獄ノ刑ニ処セ  
ラル可シ○其犯人ハ右ノ刑ノ外向後決シテ  
諸般ノ級位ヲ得及ヒ公務ヲ行フ可カラサル  
ノ禁ヲ受ク可シ

第百十二條 政府ノ算計ノ為メ各種ノ物件ヲ  
賣買シ又ハ製造ス可キ任ヲ受ケタル者其實  
買又ハ價高ノ取極メ又ハ物件分量ノ檢視或  
ハ其物件種質ノ檢視ヲ為スニ方リ詭欺ヲ用  
ヒテ已レニ利ヲ得又ハ他人ノ為メ利ヲ得セ  
シメ政府ニ損害ヲ加ヘタル時ハ官金ヲ私セ  
シ罪アリト為シ前條ニ記セシ刑ニ処セラ  
ル可シ

第百十三條 又級位ヲ受ケ又ハ公務ニ任セサ  
ル者前ニ記セシ官金竊奪ノ罪ヲ犯ス時ハ亦



前二條ノ刑ニ処セラル可シ

第百十四條 「セルグイ埃及國債証券ノ名又ハ其他ノ國

債証券ヲ分割ヲ得テ拂還ス為メ國ノ債主ヨ

リ金高ヲ受取リタル官吏又ハ其債主ヨリ金

高或ハ其他ノ贈遺ヲ受ケ其債主ニ其貸高ノ

償還ヲ得セシメタル官吏ハ有期ノ懲獄ノ刑

ニ処セラレ且ツ其受取リタル金高又ハ物件ヲ

還ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

又官吏ノ私務ニ附属セシ者又ハ官吏ノ親族

或ハ後者其官吏ノ承諾ヲ以テ國債証券各ノ分

割ヲ得テ拂還ヲ為シタル時ハ亦同上ノ刑ニ

処セラル可ク且ツ其承諾ヲ為シ官吏モ亦同

刑ニ処セラル可シ

第百十五條 官吏若シ已レノ職務上ニ管係セ

シ工業或ハ運輸ヲ為サシムル為メ工人ヲ備

ヒ入レ其備貸トシテ渡ス可キ官金ノ全部或

ハ一部ヲ已レニ私シタル時又ハ官ヨリ渡ス

金高ヲ已レニ私シ無償ニテ工人ヲ使用シ或

ハ其相当ノ備貸ヲ減シ之ヲ使用シタル時ハ

其官吏職任ノ輕重ヲ問ハス有期ノ懲獄ノ刑

ニ処セラレ且ツ其私セシ利分ニ倍スル高ヲ  
出ス可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ其高ノ半ハ  
之ヲ得可キ権アル者ニ渡シ他ノ半ハ罰金ト  
シテ官ニ徴収ス可シ

第百十六條 官吏若シ公ケノ安寧ヲ保護シ及

ヒ租税ヲ取立ル為メ定員ノ警察吏ヲ用ヒス  
其定員ノ俸給ヲ受取リタル時又ハ右警察  
吏ヲ其当然ノ職務ニ用ヒス已レノ家内ノ  
私務ニ用ヒタル時又ハ已レノ私務ニ用フ  
ル者ノ姓名ヲ警察吏ノ姓名簿ニ記入シ警

察吏ノ為メ定メタル俸給ヲ其者ニ與ヘシ時  
ハ其任務ノ輕重ヲ問ハス有期ノ繫獄ノ刑ニ  
処セラレ且ツ現ニ使用セサル人員ノ為メ受  
取リタル金高又ハ家内ノ私務ニ用ヒタル者  
ノ為メ受取リタル金高又ハ偽テ警察吏ノ姓  
名簿ニ記入セシ私務ニ用ヒタル者ノ為メ受  
取リタル金高ニ倍セシ高ヲ徴収セラル可シ

第百十七條 官吏又ハ其他ノ者、詭欺ヲ以テ官  
地又ハ官財糶賣ノ自由ト誠実トヲ害シタル時  
ハ其職ヲ罷メラル、ノ外一年ヨリサナカラ

ス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セ  
ラレ又ハ二年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カ  
ラサル時間追放ノ刑ニ処セラル可シ○又其  
犯人ハ官ノ司庫ニ其損害ヲ償フ可シ

第百十八條 官吏若シ已レノ取扱或ハ監督ヲ

任セラレシ大小ノ事務ニ付キ公然或ハ陰密  
ニ自カラ相場ノ業ヲ為シ或ハ人ヲ引入シテ  
之ヲ為シタル時又ハ官命ヲ受ケス政府ノ算  
計ノ為メ物品ヲ買入レ或ハ物品ヲ製作セシ  
メ或ハ其物品ノ賣至若クハ其製作人ト社ヲ

結ヒシ時ハ其職任ノ輕重ヲ問ハス其職ヲ罷  
メラレ且ツ一年ヨリ少ナカラス二年ヨリ多  
カラサル時間追放ノ刑ニ処セラル可シ○若  
シ又官吏右等ノ事務ニ付キ自カラ手數金ヲ  
受取り或ハ他人ヲシテ之ヲ受取ラシメ又ハ  
官吏貨幣ヲ引替ニ付キ自カラ其利ヲ得或ハ  
他人ヲシテ其利ヲ得セシメタル時ハ其職ヲ  
罷メラル、ノ外一年ヨリ少ナカラス二年ヨ  
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ又ハ  
二年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時

間追放刑ニ処セラル可シ

・第百十九條 行政官吏又ハ會計官吏其方法ノ如何ヲ問ハス官金ヲ已レニ私シ又ハ他人ノ此罪犯ヲ行フヲ助ケシ時ハ其職ヲ罷メラレ且ツ三月ヨリサナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラシ又ハ六月ヨリサナカラス三年ヨリ多カラサル時間追放ノ刑ニ処セラル可シ但シ此犯罪人ニ贋造ノ罪アル時ハ之ヲ其相当ノ刑ニ処ス可シ

第百二十條 海陸軍ノ需用ノ為メ品物ヲ供給

ス可キ委任ヲ受ケ又ハ其契約ヲ為シタル者自己ノ過失ニ因リ其公務ヲ便セサル時ハ其供給ス可キ品物價高ノ四分一ニ当ル罰金ヲ言渡サル可シ

第百二十一條 若シ官吏前條ノ犯罪人ヲ助ケ其公務ヲ便セシメサル時ハ其官吏三年ノ時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百二十二條 海陸軍ノ需用ノ為メ品物ヲ供給ス可キ契約ヲ為シタル者自己ノ過失ニ因リ其供給ヲ遅延シタル時ハ其償還ス可キ損

失償高ノ四ノ一ニ當ル罰金ヲ言渡サル可シ  
但シ品物ノ種類性質分量ヲ偽リタル者ハ後  
ニ記スル規則ヲ以テ之ヲ其相當ノ刑ニ処ス  
可シ

第五章 擅権ノ罪及ヒ職務ニ反クノ罪

第百二十三條 官吏其任セラレシ威権ニ因リ  
裁判役一名或ハ数名ニ命令ヲ為シ又ハ裁判  
役一名或ハ数名ニ迫リ一方本人ヲ曲庇シ或  
ハ之ヲ枉害スル裁判言渡ヲ得ント為シタル  
時ハ一月ヨリ少ナカラス三月ヨリ多カラサ

ル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ又右ノ犯罪  
ニ因リ現ニ不正ノ裁判言渡ヲ為サシメ又ハ  
故ラ裁判言渡ヲ為スヲ拒マシメタル時ハ三  
月ヨリ少ナカラス十八ヶ月ヨリ多カラサル  
時間禁錮ノ刑ニ処セラレ又ハ六月ヨリ少ナ  
カラス三年ヨリ多カラサル時間追放ノ刑ニ  
処セラル可シ

第百二十四條 若シ官吏ノ裁判役一名又ハ数  
名ニ一方本人ヲ曲庇シ又ハ枉害スルヲ求メ  
或ハ請ヒ或ハ勸メタル時ハ一千ヒアストル

ヨリ少ナカラス五千<sup>ト</sup>ピアストルヨリ多カラ  
サル罰金ヲ言渡サル可シ

第百二十五條 若シ前條ノ犯罪ニ因リ現ニ不

正ノ裁判言渡ヲ爲サシメ又ハ裁判言渡ヲ爲  
スヲ拒マシメタル時ハ四十五日ヨリ少サカ  
ラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処  
セラレ又ハ三月ヨリ少カラス六月ヨリ多カ  
ラサル時間追放ノ刑ニ処セラル可シ

第百二十六條 前數條ニ記シタル所爲ニ因リ  
裁判言渡ヲ爲スヲ拒ミ又ハ不正ノ裁判ヲ言

渡シタル裁判所長又ハ裁判役ハ三年ノ時間  
追放ノ刑ニ処セラレ且ツ日後再び裁判ノ職  
務ヲ行フ可カラサルノ禁ヲ受ク可シ

第百二十七條 前條ニ記セシ以外ノ場合ニ於  
テ裁判言渡ヲ爲スヲ拒ミタル裁判役ハ八百  
<sup>ト</sup>ピアストルヨリ少サカラス二千<sup>ト</sup>ピアストル  
ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第百二十八條 前數條ノ場合ニ於テ裁判役若  
シ官吏ノ犯罪ヲ檢察官ニ報告セサル時ハ取  
締ノ法則ニ反ク過失アリト看做シ其職ヲ罷

メラル可シ

第百二十九條 行法官吏裁判所ノ管轄タル可

キ人民ノ私推事務ヲ吟味シテ司法官ノ職務  
ヲ侵シ且ツ双方本人或ハ一方本人ノ願ヲ受  
ケテ司法官ノ裁判ヲ為サ、ル前ニ其事務ヲ  
裁判シタル時ハ百<sup>四</sup>アストルヨリテナカラ  
ス六百<sup>七</sup>ピアストルヨリテカラサル罰金ヲ言  
渡サル可シ

第百三十條 官吏其威權ニ因リ政府ノ命令或  
ハ法律ノ執行ヲ妨ケ又ハ租税ノ取立ヲ妨ケ

又ハ裁判言渡或ハ其他相当ナル官吏ノ命令  
ノ執行ヲ妨クル時ハ三年ノ時間禁錮ノ刑ニ  
処セラル可シ○又官吏其聽順ス可キ上等官  
吏ノ命ニ因リ、已ムヲ得ス右ノ罪ヲ犯シタル  
時ハ前ニ記セシ刑ノ適用ヲ止メ其命ヲ下シ  
タル上等官吏ヲ其刑ニ処ス可ク若シ又其命  
ヲ下シタルニ因リ前ニ記シタル刑ヲ適用ス  
可キヨリ更ニ重罪ヲ犯シタル時ハ其命ヲ下  
セシ上等官吏ヲ其重罪ニ相当スル刑ニ処ス  
可シ

第百三十一條 鎮台、租稅吏長、裁判役、會計吏、地方行政官吏、其管轄地内又ハ其威權ヲ行ヒ得可キ地内ニ於テ公然或ハ陰密ニ法律上ノ禁ニ背キ穀物及ヒ其他人民必須ノ品物ヲ賣買シ又ハ親シク或ハ人ノ从入シ或ハ其他ノ詭計ヲ用ヒテ右ノ罪ヲ犯シタル時ハ其職ヲ罷メラレ埃及ノ二百五十「リール」ヨリセシカラス一千「リール」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ○然レモ右ノ諸官吏同上ノ地内ニ於テ私有スル財産ヨリ生セシ産物ヲ賣買スルハ此例ニ非ラス

第六章 官吏ノ人民ヲ虐ムル罪

第百三十二條 裁判役又ハ評議役又ハ其他ヲ官吏犯罪被告人ヲ拷問ス可キ命ヲ下シ又ハ自カラ拷問ヲ為シタル時ハ有期ノ繫獄ノ刑ニ処セラレ且日後更ニ級位ヲ得或ハ公務ニ任ス可カラサルノ禁ヲ受ク可シ○若シ下等官吏其上等官吏ノ命ニ回リ右ノ罪ヲ犯シタル時ハ其命ヲ下セシ上等官吏ノミテ其刑ニ処ス可シ○又拷問ノ為メ被告人ノ生命ヲ



害シ又ハ其四肢ヲ用フル能ハサルニ至ラシ  
メシ時ハ其罪アル官吏人ヲ殺シ又ハ毆傷シ  
タル罪アルニ因リ其相当ノ刑ニ處セラル可  
シ

第百三十三條 裁判役評議役又ハ其他ノ官吏

法律上ニ定ムル所ヨリ更ニ重キ刑ヲ犯人ニ  
言渡スラ命シ或ハ自カラ言渡しタル時又ハ  
法律上ニ定ムル刑ヲ言渡サ、ルヲ命シ或ハ  
自カラ之ヲ言渡サ、ル時ハ六月ヨリ少ナカ  
ラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處

セラル且ツ其職ヲ罷メラレテ日後裁判所又  
ハ會議所ノ公務ニ任ス可カラサル禁ヲ受ク  
可シ

第百三十四條 諸般ノ官吏司法官吏公ケノ兵

カラ預カル官吏其役柄ヲ以テ法律上ニ定ム  
ル場合ノ外定則ヲ遵守セス人民ノ意ニ反キ  
強テ其住所ニ押入りタル時ハ六月ヨリ少ナ  
カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
処セラル可シ○然レモ右ノ官吏其上等官吏  
ノ命ニ因リ之ヲ為シタルノ証ヲ立ツル時ハ

其刑ヲ免シ其命ヲ下シタル上等官吏ヲ右ノ  
刑ニ処ス可シ○官吏ニ非サル者脅迫暴行ヲ  
以テ人ノ住所ニ押入りタル時ハ一週ヨリ少  
ナカラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑  
ニ処セラル可シ

第百三十五條 公ケノ兵カラ預カル官吏警察  
官吏、裁判所ノ命令各ヲ送達スル使吏其職務  
ヲ行フニ方リ又ハ其上等官吏ノ命ヲ執行フ  
ニ方リ法律及ヒ規則ニ反キテ人ニ暴行ヲ加  
ヘ其名譽ヲ毀害シ又ハ其身体ヲ痛苦セシム

ルニ至ル時ハ其暴行ノ輕重ニ准シテ一週ヨ  
リ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ処セラル可シ但シ其暴行ノ更ニ重キ  
罪タル時ハ其刑ヲレテ亦更ニ重カラシム可  
シ

第百三十六條 諸般ノ官吏其權ヲ擅ニシ動産  
又ハ不動産ヲ其所有者ノ意ニ反キ強テ已レ  
ニ買収シ又ハ不正ニ之ヲ買収シ又ハ其所有  
者ヲシテ其動産又ハ不動産ヲ強テ他人ニ賣  
ラシメタル時ハ其等級職務ノ如何ヲ問ハス

罪ノ輕重ニ准シ六月ヨリサナカラス三年ヨ  
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且ツ  
日後更ニ級位ヲ得及ヒ公務ニ任ス可カラサ  
ルノ禁ヲ受リ可シ  
又其裁判言渡ヲ以テ枉奪セン財産又其財産  
ノ其存存在セサル時ハ其代價ヲ還ス可キ  
ヲ言渡ス可シ

第百三十七條 官局ノ長タル官吏及ヒ其屬吏  
又ハ政府各種ノ入額收納ヲ引受リル者及ヒ  
附従者直税間税及ヒ各種ノ租税ヲ取立ツル

ニ方リ過分ノ高ヲ收斂スル時ハ左ノ刑ニ処  
セラレ可シ

官局ノ長タル官吏及ヒ入額收納ノ引受人ハ  
有期ノ繫獄ノ刑ニ処セラレ屬吏及ヒ附従者  
ハ六月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル  
時間禁錮ノ刑ニ処セラレ可シ○右ノ犯人ニ  
ハ過分ノ受取高ヲ還シ且ツ其高ニ当レル罰  
金ヲ出ス可キヲ言渡ス可シ

第百三十八條 官吏法律上ニ定ムル罰金ノ外  
更ニ罰金ノ名義ヲ以テ多クノ金高又ハ物件

ヲ受取りタル時又ハ法律上ニ於テ犯人ニ課  
ス可キ定数ニ過キタル罰金ヲ課セシ時又ハ  
裁判言渡書ヲ以テ罰金ヲ言渡サ、ル前ニ其  
罰金ヲ出サシメタル時ハ有期ノ繫獄ノ刑ニ  
処セラル可シ○又右ノ犯罪官吏ニハ其不当  
ニ受取りタル高ヲ還シ且ウ其高ニ当レル罰  
金ヲ出ス可キヲ言渡ス可シ

第百三十九條 官吏又ハ州内ノ貴顕法律上ニ  
定メ且ツ政府ヨリ命シタル共同資益ノモノニ  
非サル工業ニ無賃ニテ人民ヲ使役シタル時

又ハ地方人民ノ資益ノ為メ已ムヲ得サルヲ  
許認セシニ非サル 工業ニ無賃ニテ人民  
ヲ使役シタル時ハ其罪ノ輕重ニ准シ六月ヨ  
リサナカラス三年ヨリ多カラサル時間追放  
ノ刑ニ処セラレ且ウ其犯人ノ官吏タル時ハ其  
官職ヲ罷メラル可シ○又其犯人ニハ其不正  
ニ使役セシ人夫ノ相当ノ雇賃ヲ拂フ可キヲ  
言渡ス可シ

第百四十條 官吏、屬吏、上等官吏ノ命令ヲ執行  
スル者裁判所ノ命令各ヲ送達スル使吏、陸海

軍ノ士官及ヒ兵卒、検察、官吏等其旅行ノ途中  
人民ノ家ニ泊シ、飲食品又ハ、殊ヲ強ク、倒價ニ  
賣ラシメ、又ハ無價ニテ奪取リタル時ハ一  
週ヨリ少ナカラス一月ヨリ多カラサル時、  
禁錮ノ刑ニ処セラル可シ。○又一隊ヲ為シテ  
進行スル兵卒ノ右暴行ヲ為シタル時ハ其士  
官六月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル  
時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ。○右犯人ノ官  
吏タル時ハ其職ヲ罷メラル可シ。○又右犯罪  
人ニハ其奪取リシ物件ノ代價ヲ其持主ニ拂

フ可キヲ言渡ス可シ

埃及  
法律書

刑法草案

三

第七章 官命ニ抗スル罪、官命ニ背ク罪  
官吏ニ不敬ヲ加フル罪

第百四十一條 裁判官、會議院員、陪審及ヒ其他ノ諸官吏ノ其職務ヲ行フニ方リ又ハ其職務ヲ行ハント為ス時、体様、言詞、脅迫ヲ以テ不敬ヲ加ヘシ者ハ一週ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ○  
若シ裁判席又ハ會議席ニ於テ右ノ不敬ヲ加ヘシ時ハ六月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百四十二條 前條ニ記スル景状ニ於テ裁判  
所附官吏定備兵及ヒ然テ公ケノ兵カラ預カ  
ル者又ハ公務ヲ任セラレシ者ニ不敬ヲ加ヘ  
タル時ハ百<sup>圓</sup>アストルヨリ少ナカラス三百  
<sup>圓</sup>アストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル  
可シ

又右兵ノ士官又ハ公ケノ兵カラ指揮スル者  
ニ不敬ヲ加ヘタル時ハ一週ヨリ少ナカラス  
一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラ  
ル可シ

第百四十三條 何人ニ限ラス兵器ヲ携ヘス且  
ツ創傷ヲ被ラレメスト虽モ前二條ニ記列シ  
タル各人ノ其職務ヲ行フニ當リ又ハ其職務  
ヲ行ハント為ス時之ヲ攻撃シタル者ハ六月  
ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁  
錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百四十四條 右ノ暴行ニ因リ創傷ヲ被ラシ  
メ又ハ病ニ罹ラシメタル時ハ前條ニ記シタ  
ル至重ノ刑ヲ適用ス可シ但シ其刑ハ平民ヲ



攻撃シ又ハ創傷ヲ被ラシムル罪ニ付キ言渡  
ス可キ刑ニ倍セシムルヲ得可シ

第百四十五條 公ケノ兵カヲ豫カル官吏裁判

所附官吏租税官吏又ハ其他総テ法律官署ノ  
命令裁判所ノ命令等ヲ執行スル為ノ公務ノ

任ヲ受ケシ者ヲ攻撃シ又ハ暴行脅迫ヲ加ヘ

其命ニ抗スル時ハ之ヲ十日ヨリサナカラス

六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処ス可

シ○若シ又犯人兵器ヲ携フル時ハ六月ヨリ

サナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ

刑ニ処ス可シ但シ此規則ト二十人以上群集

シテ右ノ罪ヲ犯シタル時第九十一條ニ循ヒ

其犯人ヲ更ニ重キ刑ニ処ス可キ規則ト相納

ル、ナカル可シ

第第八章 囚徒ノ逃亡及ヒ犯人ヲ隠匿ス

ル罪

第百四十六條 有期ノ刑ヲ言渡サレシ者其獄

舎ヲ逃亡シ又ハ此獄舎ヨリ彼獄舎ニ移ス途

中逃亡シタル時ハ其罪ヲ獄ニ繋カレシ刑期

ノ半ハニ当レル刑ニ処セラル可シ

第百四十七條 有期ノ追放ノ刑ニ処セラレシ者ノ逃亡シタル時ハ獄舎内ニ於テ嘗テ受ケタル刑ノ殘餘ト逃亡ノ為メノ刑トヲ受リ可シ  
無期ノ追放ノ刑ニ処セラレシ者ノ逃亡シタル時ハ無期ノ懲獄ノ刑ニ処セラル可シ  
無期ノ懲獄ノ刑ニ処セラレシ者ノ逃亡シタル時ハ無期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百四十八條 預防ノ為メ逮捕セラレシ者ノ逃亡シタル時ハ其者ノ引出狀又ハ拘留狀ヲ受

ケタルト否トヲ問ハス六月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ可シ但シ其刑ハ右逮捕ノ原因タル輕重罪ニ付テノ刑ト五ニ消殺スルヲ得可カラス又其刑期ハ右輕重罪ニ付テノ刑期ノ終リシ日ヨリ之ヲ算ヘ或ハ保証人ヲ立テ假リニ自由ヲ得セシメ又ハ無罪及ヒ釈放ノ言渡ヲ為シタルニ因リ預防ノ為メノ逮捕ヲ止メタル日ヨリ之ヲ算フ可シ

第百四十九條 犯人ノ監守人ニ非サル者犯者

ヲシテ逃亡ヲ得セシメ又ハ逃亡ヲ容易ナラ  
シメタル時ハ一週ヨリ少ナカラス六月ヨリ  
多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処スラル可シ  
第百五十條 犯人ノ監守ヲ任セラレタルト否  
ヲ問ハス犯人ノ逃亡ヲ助クル為メ兵器又ハ  
人ニ暴行ヲ加フルニ適スル器具ヲ貸與シタ  
ル者ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百五十一條 犯人ノ監守ヲ任セラレシ者金  
額又ハ其他ノ贈物ヲ受ケ又ハ特別ノ約束ニ  
因リ犯者ニ逃亡ヲ得セシメタル時其犯人ノ罪

死刑無期ノ徒刑無期ノ懲獄ノ刑ニ処セラル  
可キモノタルニ於テハ其監守人其受ケタル  
金高ニ倍スル罰金ヲ言渡サレ且ツ有期ノ徒  
刑ニ処セラル可シ○又犯人ノ罪前ニ記スル  
所ヨリ更ニ輕キモノタル時ハ其監守人納賄  
ノ刑ニ処セラル可シ但シ其刑ハ賄賂ヲ贈リ  
又ハ約束ヲ為セシ者ヲ処ス可キ刑ト同一タ  
ル可シ

第百五十二條 何人ニ限ラズ重罪犯人ノ逃亡  
シタルヲ知り又ハ其処刑ヲ遁レシヲ知り之

ヲ隠匿シタル者或ハ裁判所ヨリ重罪被告人  
ヲ捕獲ス可キ命令アルヲ知り之ヲ隠匿シタ  
ル者ハ六月ヨリシナカラス二年ヨリ長カラ  
サル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ○犯人ノ  
尊属又ハ卑属ノ親其配偶者兄弟姉妹及ヒ之  
レト同級ノ姻属ノ親ハ此限ニ非ス  
若シ軽罪ノ犯人又ハ軽罪被告人ヲ隠匿シタ  
ル時ハ一月ヨリシナカラス三月ヨリ長カラ  
サル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第九章 封印ヲ破毀スル罪及ヒ官署ニ

在ル証卷及ヒ物品ヲ奪フ罪

第百五十三條

何事ニ限ラス官署ノ命令又ハ

裁判所ノ言渡ニ因リ家屋書類動産等ヲ保全

スルタメ為シタル封印ヲ破毀スル者アル時

ハ其監守人懈怠ノ罪ニ因リ五百<sup>ピアストル</sup>

ヨリシナカラス五千<sup>ピアストル</sup>ヨリ多カラ

サル罰金ヲ言渡ケル可シ

第百五十四條

又重罪被告人或ハ重罪被告人ニ

管スル各類又ハ動産ニ為シタル封印ヲ破毀

スル者アル時ハ其懈怠ナル監守人右重罪ノ

種類 = 目リ三月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑 = 処セラル可シ

第百五十五條 前条 = 記シタル種類ノ各類又

ハ動産 = 為シタル封印ヲ破毀シタル者ハ六

月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間

禁錮ノ刑 = 処セラル可シ若シ又監守人自カ

ラ其罪ヲ犯ス時ハ一年ヨリ少ナカラス三年

ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑 = 処セラル可

シ

第百五十六條 前 = 記シタルヨリ更 = 他ノ趣

意ヲ以テ封印ヲ破毀セシ者ハ一週ヨリ少ナ

カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑 = 処セ

ラル可シ若シ又監守人自カラ其罪ヲ犯ス時

ハ六月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル

時間禁錮ノ刑 = 処セラル可シ

第百五十七條 封印ヲ破毀シテ盜罪ヲ犯セシ

者ハ物ヲ破壊シテ盜ヲ行フタルノ罪アリト

為シ其相当ノ刑 = 処セラル可シ

第百五十八條 公ケノ預リ場 = 藏メ置キ又ハ

監守人ノ預リタル官府 = 属スル証各各類簿

冊、目錄或ハ裁判手続各ヲ奪ヒ又ハ之ヲ破毀  
スル者アル時ハ懈怠ノ罪アル監守人其月給  
ニ当レル罰金ヲ言渡サレ且ツ一週ヨリ少ナ  
カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
処セラル可シ

第百五十九條 前条ニ記セシ盜奪又ハ破毀ノ  
罪ヲ犯シタル者ハ六月ヨリ少ナカラス二年  
ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可  
シ○若シ監守人自カラ其罪ヲ犯シタル時ハ  
其月給ニ當レル罰金ヲ言渡サレ且ツ一年ヨ

リ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ処セラル可シ

第百六十條 若シ封印ヲ破毀シ又ハ各類等ノ  
盜奪或ハ破毀スルノ罪ヲ犯セシ時其監守人  
ニ暴行ヲ加ヘタルニ於テハ其犯人有期ノ徒  
刑ニ処セラル可シ

第百六十一條 官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケタ  
ル者郵便ニ托セシ各状又ハ其他ノ送達者ニ  
托セシ各状ヲ破毀シ或ハ開封スルノ罪ヲ自  
カラ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメタル時ハ百

可アストルルヨリ少ナカラス五百「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サレ且ツ一月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ○又郵便役所ノ使用ヲ受クル者官吏或ハ平民ノ右各状ノ破毀又ハ開封ノ罪ヲ犯スヲ知テ之ヲ制セサル時ハ前ニ記スル所ト同一ノ刑ニ処セラル可シ

第十章 官職ヲ俗スル罪

第百六十二條 何人ニ限ラス其官職ニ居ラス

又ハ政府ノ幹シナリシテ文武ノ職務ニ干渉

シ又ハ其職務ニ属スル權ヲ行フタル者ハ三月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ○若シ其犯人ノ所為或ハ其差出シタル証書ニ詐偽ヲ以テ財ヲ奪フノ罪又ハ贋造ノ罪アルト分明ナルニ於テハ其犯人ヲ此等ノ犯罪ニ当レル刑ニ処ス可シ

第百六十三條 何人ニ限ラス已レノ着用ス可

カラサル官服又ハ礼服ヲ着シタル者ハ三月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁

錮ノ刑ニ処セラル可シ

第十一章 法教ノ自由ヲ妨クル罪

第百六十四條 何人ニ限ラス官弁アル法教又

ハ其法教ニ管シタル禮拜ノ式ヲ行フニ障礙

ヲ為シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ妨ケタル者

ハ其罪ノ輕重ニ准シ一週ヨリ少ナカラス三

月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル

可シ

第十二章 記念ノ標識ヲ破壊スル罪

第百六十五條 何人ニ限ラス公ケノ資益又ハ

裝飾ノ為メ設ケシ建物或ハ記念ノ標識ヲ破

壊毀傷シ又ハ寺院、市街、遊歩場、市場、公園ニ植

ヘタル樹木ヲ伐リ或ハ毀傷シタル者ハ一月

ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁

錮ノ刑ニ処セラシ且ツ百<sup>〇</sup>ピアストルヨリ少

ナカラス千<sup>〇</sup>ピアストルヨリ多カラサル罰金

ヲ言渡サル可シ但シ此規則ト犯人ヲシテ其

毀害ノ償ヲ為サシム可キ規則ト相筋ル、

ナカル可シ

第十三章 電信ニ障礙ヲ為ス罪



第百六十六條 何人ニ限ラス懈怠ニ因リ電信

局ノ務ヲ害シ又ハ器械ヲ損セシメ電信ノ妨

ケヲ為シタル者ハ五百<sup>ピアストル</sup>ヨリ少ナ

カラス五千<sup>ピアストル</sup>ヨリ多カラサル罰金

ヲ言渡サル可シ若シ又其犯人惡意ヲ狹ムノ

証アル時ハ三月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多

カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百六十七條 何人ニ限ラス電信線器械<sup>イヅ</sup>

ールマン<sup>レ</sup>電気ノ外ニ通スル 及ヒ電信線ノ杭

ヲ毀壞シ又ハ其他方法ノ如何ヲ問ハス故意

ヲ以テ電信ヲ通スルヲ妨ケシ者ハ三月ヨリ

少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ

刑ニ処セラレ且ツ五百<sup>ピアストル</sup>ヨリ少ナ

カラス五千<sup>ピアストル</sup>ヨリ多カラサル罰金

ヲ言渡サル可シ但シ此規則ト犯人ヲシテ其

損害ノ償ヲ為サシム可キ規則ト相觸ル、<sup>丁</sup>

ナカル可シ

第百六十八條 何人ニ限ラス騷擾又ハ一揆

ノ時電信線ヲ破毀シ又ハ縱令一時タリトモ

電信線ヲ用フルヲ能ハサルニ至ラシメ又ハ

暴行或ハ其他ノ法方ニ因テ電信線ヲ奪ヒ官  
吏及ヒ平民ノ互ニ通信スルヲ妨ケタル者又  
ハ電信線ノ修復ニ抗拒シタル者ハ有期ノ徒  
刑ニ処セラレ且ツ五千「ピアストル」ヨリサナ  
カラスニ万「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金  
ヲ言渡サル可シ但シ此規則ト犯人ヲシテ其  
損害ノ償ヲ為サシム可キ規則ト相酌ル、一ナ  
カル可シ

第十四章 印刷及ヒ教育ニ管スル罪

第百六十九條 何人ニ限ラス官許ヲ得スシテ

印刷局ヲ開キレ者ハ埃及ノ貨幣五十「リール」  
此ノ罰金ヲ言渡サレ且ツ其印刷局ヲ閉ツ可  
キノ言渡ヲ受ク可シ

第百七十條 國君、政府又ハ官吏ニ對シ不敬ヲ  
加フル畧類ヲ印刷シ又ハ印刷セシメ或ハ之  
ヲ公ケニ頒布セシメシ者ハ埃及ノ貨幣十「リ  
ール」ヨリ少ナカラス五十「リール」ヨリ多カ  
ラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第百七十一條 右印本ハ裁判所ノ命ニテ之ヲ  
差押へ且ツ其印刷局ハ之ヲ一時又ハ永久閉

ツ可キ旨ヲ言渡ス丁ヲ得可シ

第百七十二條 風儀ヲ乱ル可キ各類又ハ画図  
ヲ印刷シ或ハ印刷セシメ或ハ之ヲ公ケニ頒  
布セシメシ者ハ埃及ノ貨幣一「リ」ブルヨリ  
少ナカラス五「リ」ブルヨリ多カラサル罰金  
ヲ言渡サレ且ツ二十四時ヨリ少ナカラス一  
週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル  
可シ

第百七十三條 教育ノ法律及ヒ規則ニ背キテ

学校ヲ閉キタル者ハ埃及ノ貨幣五「リ」ブル

ヨリ少ナカラス三十「リ」ブルヨリ多カラサ  
ル罰金ヲ言渡サレ且ツ其学校ヲ閉ツ可キ旨  
ヲ言渡サル可シ

### 第十五章 貨幣鑄造ノ罪

第百七十四條 國ニ於テ当然通用スル金銀貨  
幣ヲ鑄造シ又ハ鑿、鑿、錐、硝酸等ヲ用ヒ貨幣中ニ  
入リタル金銀ヲ磨穿鑿出シ貨幣ノ量ヲ減シ  
タル者又ハ貨幣ニ着色シテ其價ヲ美ヨリ更  
ニ大ナルカ如ク見セシメタル者又ハ右鑄造  
變造ノ貨幣ヲ発出シ或ハ之ヲ國內ニ輸入ス

ルニ加ハリシ者又ハ右贋造変造ノ貨幣ヲ流  
通セシムルヲ其職業ト為ス者ハ有期ノ徒刑  
ニ処セラル可シ但シ其刑期ハ決シテ十年以  
下タルトナカル可シ

第百七十五條 何人ニ限ラス國ニ於テ通用ス  
ル銅貨ヲ贋造シ又ハ其贋造銅貨ヲ發入シ或  
ハ之ヲ國內ニ輸入スルニ加ハリシ者ハ有期  
ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百七十六條 何人ニ限ラス國內ニ於テ外國  
ノ貨幣ヲ贋造シ又ハ第百七十四條ニ記シタ

ル方法ヲ用ヒ外國貨幣ノ價ヲ減シ或ハ其色  
ヲ変シ又ハ右贋造変造ノ外國貨幣ヲ發出シ  
或ハ之ヲ國內ニ輸入スルニ加ハリ又ハ之ヲ  
流通セシムルヲ其職業ト為ス者ハ有期ノ徒  
刑ニ処セラル可シ

第百七十七條 贋造変造ノ貨幣ヲ正シキ貨幣  
ナリト為シ受取テ流通セシメタル者ニハ前  
數條ノ規則ヲ通シ用フ可カラス然レモ右貨  
幣ノ贋造又ハ變造タルヲ識認シタル後之ヲ  
用ヒシ者ハ其用ヒタル貨幣ノ高ノ三倍ヨリ

少ナカラス六倍ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡  
サル可シ但シ其罰金ハ決シテ百<sup>圓</sup>ニアストル  
以下タルヲナカル可シ

第百七十八條 第百七十四條、第百七十五條、第  
百七十六條ニ記シタル者其罪ヲ成就セサル  
前且ツ其犯罪告訴ノ始マラサル前ニ相当ノ  
官吏ニ其罪ヲ自訴シ又ハ其犯罪告訴ノ既ニ  
始マリシ後ト虽氏他ノ犯人ノ逮捕ヲ得セシ  
メタル時ハ其刑ヲ免カル可シ然レモ此等ノ  
者ハ一時政府ノ監察ヲ受ケシム可シ

第十六章 贋造ノ罪

第百七十九條 政府ノ命令各ヲ贋造シ或ハ贋  
造セシメ又ハ変造シ或ハ変造セシメシ者、政  
府官吏ノ鈐印、姓名ノ手署、姓名ノ手署ニ代用  
スル横線ヲ贋造シ或ハ贋造セシメシ者、國君  
ノ印璽、國璽、官署ノ印ヲ贋造シタル者或ハ其  
贋造セシ印璽ヲ用ヒタル者、國債証券、會計局  
ノ証券又ハ其他總テ會計局或ハ公ケノ銀鋪  
ノ証券ヲ贋造、變造シ又ハ其贋造、變造ノ証券  
ヲ用ヒ又ハ之ヲ國內ニ輸入シタル者ハ有期

ノ徒刑又ハ懲獄ノ刑ニ処セラル可シ但シ其  
刑期ハ決シテ十年以下タル可カラス

第百八十條 何人ニ限ラス不正ニ真ノ鑿記ヲ  
得テ政府、國家又ハ平民ノ害トナル可キ方法  
ニ之ヲ用ヒタル者ハ三年ノ時間禁錮ノ刑ニ  
処セラル可シ

第百八十一條 政府ノ名目ヲ以テ各種ノ物品  
或ハ高品ニ附ス可キ璽印、鑿記、記号ヲ贋造シ  
タル者、官署、官許アル會社、商店ノ璽印、鑿記、記  
号ヲ贋造シタル者又ハ右贋造ノ璽印、鑿記、記

号ヲ用ヒタル者ハ三年ノ時間禁錮ノ刑ニ処  
セラレ且ツ損害ノ償ヲ為ス可キ旨ヲ言渡サ  
ル可シ

第百八十二條 何人ニ限ラス前ニ記セシ用法  
ノ為メ造リタル真ノ璽印、鑿記、記号ヲ不正ニ  
得テ官署、會社、商店ノ害トナル可キ方法ニ之  
ヲ用ヒタル者ハ六月ヨリ少ナカラス一年ヨ  
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且ツ  
損害ノ償ヲ為ス可キ旨ヲ言渡サル可シ

第百八十三條 前數條ニ記シタル贋造ノ罪ヲ

犯セシ者其犯罪ヲ成就セサル前且ツ犯罪訴  
訟ノ始マラサル前相当ノ官吏ニ自訴シ或ハ  
其首謀者ヲ申告シタル時又ハ既ニ犯罪訴訟  
ノ始マリシ後ト虽モ他ノ犯人ノ逮捕ヲ得テ  
シメシ時ハ其刑ヲ免カル可シ然レ此等ノ  
者ハ一時政府ノ監察ヲ受ケシム可シ

第百八十四條 官吏其職務ヲ行フニ方リ証各、  
報告各、調各及ヒ其他ノ各類或ハ簿冊、目錄等  
ニ猥リニ各入ヲ為シ又ハ文面、鈐印姓名ノ手  
署ヲ變造シ又ハ人ノ姓名ヲ偽リ記シテ贋造

ノ罪ヲ犯シタル時ハ有期ノ徒刑又ハ懲獄ノ  
刑ニ処セラル可シ但シ其刑期ハ決シテ十年  
以下タルヲナカル可シ

第百八十五條 前ニ記シタル贋造ノ罪ヲ犯セ  
シ者ノ官吏ニ非サル時ハ七年ニ過キサル時  
間徒刑又ハ懲獄ノ刑ニ処セラル可シ

第百八十六條 裁判所又ハ會議又ハ其他ノ官  
局ニ於テ職務ヲ行フ官吏其職掌上ノ証各ヲ  
記スルニ方リ管係人ノ申述フル所ヲ變シテ  
其証各ニ記シ或ハ管係人ノ偽ナリト述ベタル

事ヲ眞実ナリト記シ或ハ管係人ノ自認セサ  
ル事ヲ自認シタリト記シ事實又ハ景状ヲ偽  
テ変シタル時ハ有期ノ徒刑又ハ懲獄ノ刑ニ  
処セラル可シ但シ其刑期ハ決シテ十年以下  
タル可カラス

第百八十七條 前二條ニ記シタル贋造ノ各類  
ヲ其贋造タルヲ知り故ヲ用ヒシ者ハ有期  
ノ徒刑又ハ懲獄ノ刑ニ処セラル可シ但シ其  
刑期ハ決シテ七年ニ過ク可カラス

第百八十八條 何人ニ限ラス前ニ記セシ方法

中ノ一ヲ用ヒ私吞ヲ贋造シタル者又ハ故ヲ  
ニ贋造ノ私吞ヲ用ヒタル者ハ一年ヨリ少ナ  
カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
処セラル可シ

第百八十九條 何人ニ限ラス往來切手又ハ路  
票ニ偽名ヲ記セシメシ者又ハ偽名ヲ用ヒ往  
來切手又ハ路票ヲ得ル為メ故ヲ保証人ト  
ナリシ者ハ六月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百九十條 何人ニ限ラス往來切手或ハ路票



ヲ贋造シタル者又ハ原來真正ナル此類ノ証  
書ヲ変造シタル者又ハ其贋造或ハ変造ノ往  
來切手或ハ路票ヲ用ヒタル者ハ一年ヨリ少  
ナカラズ三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑  
ニ処セラル可シ

第百九十一條 旅舎、加非店、貸屋、貸室ノ主人及  
ヒ其他総テ旅人ヲ泊セシムル家屋ノ主人其  
宿泊セシメシ者ノ姓名ヲ故ラ偽テ簿冊ニ記  
シタル時ハ一月ヨリ少ナカラズ三月ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百九十二條 官吏若シ規則ニ循ヒ当然ノ保  
証ヲ要セス往來切手ヲ渡シタル時ハ六月ヨ  
リ少ナカラズ一年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ処セラレ且ツ其職ヲ退ケラル可シ  
官吏若シ本人ノ姓名ノ偽リシヲ知り其偽名  
ヲ記シタル往來切手ヲ渡セシ時ハ六月ヨリ  
少ナカラズ二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ  
刑ニ処セラル可シ

第百九十三條 何人ニ限ラス自カラ公役ヲ免  
ル、為メ又ハ他人ノ公役ヲ免シシムル為メ

内科又ハ外科ノ醫師ノ姓名ヲ偽リ用ヒテ疾  
病ノ証各ヲ贋造シ又ハ贋造セシメタル者ハ  
一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時  
間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百九十四條 内科又ハ外科ノ醫師本人ノ乞

ニ後ヒ又ハ其情ヲ憐シ公役ヲ免レシム可キ

疾病ノ証各ヲ偽リ造リシ時ハ一年ヨリ少ナ

カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ

処セラル可シ○若シ其醫師約束或ハ贈物ノ

為ノ其心ヲ動カサレシ時ハ納賂ノ刑ニ処セ

ラレ又其贈賄者ハ其罪ニ應スル刑ニ処セラ

ル可シ

第百九十五條 又裁判所ニ差出ス可キ証各疾病

事故等ノ証各ヲ偽リ造リシ時ハ亦前二條ニ記

スル刑ヲ適用ス可シ

第百九十六條 贋造或ハ変造ノ璽印、鈐印、鑿記

証各ヲ用ヒシ者其贋造又ハ変造タルヲ知ラ

サルノ証アル時ハ其刑ヲ適用ス可カラス

埃及  
法律書  
及  
刑法草案

第三篇

平民ニ對スル重罪及ヒ輕罪

並ニ其刑

第一章 放火ノ罪

第百九十七條

何人ニ限ラス都府村邑ノ内外

ニ在ル建物又ハ船舶物置場倉庫及ヒ其他總

テ人ノ現ニ居住スル場処又ハ住居スル為メ

設ケタル場処ニ火ヲ放チシ者ハ此等ノ諸物

ノ已レノ所有物タルト否トヲ問ハス死刑ニ

処セラル可シ○又人ノ乘リタル車又ハ人ノ

乘リタル列車ノ一部分ヲ為ス車ニ火ヲ放ケ

シ者ハ亦同上ノ刑ニ処セラル可シ

第百九十八條 何人ニ限ラズ人ノ現ニ住居セ  
ス又ハ人ノ住居ノ為メ設ケタル建物、船舶、物  
置場、倉庫ニ火ヲ放テ又ハ大木小樹ノ森林或  
ハ未タ芻取セサル穀艸ニ火ヲ放テタル者ハ  
此等ノ諸物ヲ已レニ所有セサルニ於テハ無  
期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百九十九條 已レニ所有スル右ノ諸物ニ火  
ヲ放テ又ハ其所有者ノ指令ニ従ヒ右ノ諸物  
ニ火ヲ放テテ他人ニ害ヲ加ヘタル者ハ有期  
ノ徒刑ニ処セラル可シ

第二百條 已レノ所有ニ属セサル建築ニ用フ  
ル木材或ハ既ニ芻取シタル穀艸ニ火ヲ放テ  
シ者又ハ商品ヲ積ミタルト否トヲ問ハズ人  
ノ乗りタル列車ノ一部分ヲ為サ、ル車ニ火  
ヲ放テシ者ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ○  
若シ已レノ所有スル右ノ諸物ニ火ヲ放テ又  
ハ其所有者ノ指令ニ従ヒ右ノ諸物ニ火ヲ放  
テテ他人ニ害ヲ加ヘシ者ハ有期ノ徒刑ニ処  
セラル可シ

第二百一條 若シ其目的ト為ス物件ニ直チニ  
火ヲ放タス之ト相接近スル物件ニ火ヲ放テ  
其目的タル物件ニ及ホシタル時ハ其犯人前  
数條ニ記シタル差別ニ循ヒ其相当ソ刑ニ処  
セラル可シ

第二百二條 如何ナル場合ニ於テモ火ノ癸セ  
シ時其場処ニ居合ハセシ一人又ハ数人ノ  
焚死シタル時ハ其犯人死刑ニ処セラル可シ

第二百三條 地雷火ヲ癸セシメ前数條ニ記シ  
タル物件ヲ毀滅セシ者ハ前数條ノ差別ニ從  
ヒ火ヲ放テテ之ヲ毀滅シタルト同一ノ刑ニ  
処セラル可シ

### 第二章 人ヲ殺ノ罪、創傷攻撃ノ罪

#### 脅迫ノ罪

第二百四條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リシ確  
証アリテ人ヲ故殺セシ者ハ死刑ニ処セラル  
可シ

第二百五條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀ルトハ  
其兇行ヲ為ス前ニ預メ特定セシ人又ハ其場  
処ニ居合ハセ或ハ出逢フ可キ人ノ生命ヲ害

セシト謀リシヲ云フ但シ其謀計ノ縱令偶然ニ生シタル時ト虽モ亦曰一ナリトス

第二百六條 遅速ヲ問ハス人ヲシテ死ニ至ラシム可キ毒藥ヲ用ヒ或ハ人ノ来ルヲ待テ害ヲ加ヘント為ス時ハ預テ人ニ害ヲ加ヘント謀リシモノト為ス可シ

第二百七條 後來ノ行状ニ因リ兇行ヲ以テ其職業ト為ス者一箇ノ重罪ヲ犯サンカ为ノ人ヲ痛苦セシメ又ハ殘忍ノ所為ヲ行フタル時ハ其犯人ヲ死刑ニ処ス可シ

第二百八條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀ルナク人ヲ故殺シタル者ハ十五年間徒刑ニ処セラル可シ

第二百九條 然レモ前條ニ記スル故殺ノ罪ヲ犯ス前後或ハ之レト同時ニ他ノ重罪ヲ犯シタル時又ハ輕罪ノ設備ヲ為シ或ハ輕罪犯ヲ容易ナラシメ或ハ輕罪ヲ行フ为メ或ハ輕罪ノ犯人又ハ其同罪人ノ逃亡或ハ其罰ヲ免ル、ヲ助クル为メ前條ニ記スル故殺ノ罪ヲ犯シタル時ハ其犯人ヲ死刑ニ処ス可シ

第二百十條 人ヲ殺スノ罪ヲ犯セシ本人ヲ死刑ニ処ス可キ時ハ其凶罪人ヲ有期ノ徒刑ニ処ス可シ

第二百十一條 死刑ヲ言渡サレシ犯人特別ノ寛典ヲ以テ其刑ヲ宥ルサレタル時ハ無期ノ徒刑又ハ有期ノ徒刑ニ処ス可シ但シ有期ノ徒刑ハ十五年ヨリ短キナカカル可シ

第二百十二條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ故殺ノ罪ヲ試ミ爲シタル時ハ其創傷政撃ノ輕重ヲ問ハス又全ク人ニ害ヲ加フル能ハサレ

ニ管セス其犯人ヲ有期ノ徒刑ニ処ス可シ

第二百十三條 疎忽疎虞懈怠ニ因リ及ヒ規則ヲ遵守セサルニ因リ故意ニ非スシテ人ヲ殺セシ者ハ六月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百十四條 何人ニ限ラス殺害ニ逢ヒシ人ノ屍ヲ隱匿シ又ハ相当ノ官吏ニ其殺害ノ由ヲ報告シテ檢屍ヲ受ケサル前ニ其屍ヲ埋葬シタル者ハ一月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且ツ百<sup>回</sup>ヒアス



トルヨリ少ナカラス五百<sup>ノ</sup>ピアストルヨリ多  
カラサル罰金ヲ言渡サル可シ但シ其犯人殺  
害ノ罪ヲ犯セシ本人又ハ其同罪人タル時ハ  
此例ニ非ス

第百十五條 何人ニ限ラス人ヲ創傷政撃シ  
之カ为メ療治ノ为メ切斷ヲ受ケシメ又ハ四  
肢ヲ用フル能ハサルニ至ラシメシ者ハ三年  
間ノ徒刑ニ処セラル可シ○預メ人ニ害ヲ加  
ヘント謀リタル確証アル時ハ其刑期ヲ増シ  
テ十年ト为ス<sup>ト</sup>得可シ

第百十六條 人ヲ創傷政撃シ之レカ为メ病  
ニ罹ラシメ又ハ二十日以上労働スル能ハサ  
ルニ至ラシメシ者ハ三月ヨリ少ナカラス二  
年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル  
可シ若シ預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リタル確  
証アル時ハ六月ヨリ少ナカラス三年ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百十七條 又其創傷政撃ノ前二條ニ記スル  
カ如ク重罰ナラサル時ハ其犯人ヲ一週ヨリ  
少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ

刑ニ処ス可シ○若シ預メ人ニ害ヲ加ヘシト  
謀リタル確証アル時ハ一月ヨリ少ナカラス  
二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処ス可  
シ

第二百十八條 疎忽疎虞、懈怠又因リ又ハ規則

ヲ遵守セサルニ因リ人ニ創傷ヲ被ラシメシ  
者ハ一週ヨリ少ナカラス二月ヨリ多カラサ  
ル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ可シ

第二百十九條 人ヲ殺シ又ハ創傷、攻撃ノ罪

ヲ犯スト共ニ官命ニ抗シ又ハ掠奪ヲ為スノ  
罪ヲ犯セシ時ハ此等ノ犯罪ノ本人ヲ法律ニ循  
ヒ刑ニ処ス可キノミナラス其煽動者及ヒ挑  
唆者モ亦其犯罪本人ト同一ノ刑ニ処ス可シ

第二百二十條 人ヲ指揮シ其意ノ如ク行ハシ

ム可キ強制ノカアル者ノ指揮ニ因テ人ヲ殺  
スノ罪ヲ犯セシ者アル時ハ其指揮者ノミニ  
人ヲ殺スノ罪アリト為シ之ヲ其刑ニ処ス可  
シ

強制ノカアルトハ其指揮ニ従フヲ肯セサル  
者ヲ殺ス可キカアルヲ云フ○此場合ノ外ハ

右ノ如キ指揮ニ從フタル者其罪ノ者恕ヲ得  
可カラス人ヲ殺スノ罪アリト爲シ其刑ニ処  
セラル可ク又強制ノカナク人ヲ殺ス可キノ  
指揮ヲ爲シタル者ハ有期ノ徒刑ニ処セラル  
可シ

第二百二十一條 強制ノカアル者ノ指揮ニ從  
ヒ人ヲ創傷攻撃セシ者アル時ハ其指揮ヲ爲  
シタル者前數條ニ記セシ犯罪輕重ノ差別ニ  
從ヒ其相当ノ刑ニ処セラル可シ又其指揮ヲ  
爲セシ者ニ強制ノカアラサル時ハ其創傷又

ハ攻撃ノ罪ヲ犯セシ本人其相当ノ刑ニ処セ  
ラレ其指揮ヲ爲シタル者ハ一週ヨリ少ナカ  
ラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処  
セラル可シ

然レモ人ヲ指揮シ創傷攻撃ノ罪ヲ犯サシメ  
其害ヲ被リシ者之レニ因リ療治ノ爲メ切斷  
ヲ受ケ又ハ其四肢ヲ用フル能ハサルニ至リ  
シ時ハ其指揮ヲ爲セシ者如何ナル場合ニ於  
テモ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第二百二十二條 已レノ生命ヲ防護シ或ハ人

ノ生命ヲ防護スル為メ又ハ已レノ身体或ハ  
人ノ身体ノ猥褻ノ暴行ニ罹ルヲ防ク為メ現  
ニ已ムヲ得ス人ヲ殺シ又ハ創傷シタル者ハ  
刑ヲ受クルトナカル可シ

第百二十三條 又夜間家屋、店舗、房室ニ攀援  
スル者ヲ防キ又ハ鎖鑰ヲ以テ閉ケタル所ヲ  
破壊シ或ハ牆壁及ヒ人ノ住居スル家屋或ハ  
其入り口ヲ破壊スル者ヲ防ク為メ人ヲ殺シ  
又ハ創傷攻撃シタル者ハ亦刑ヲ受クルトナ  
カル可シ

若シ昼間前項ニ記セシ事ヲ行フタル時ハ人  
ヲ殺シ又ハ創傷攻撃セシ所為ヲ全ク無罪ト  
為ス可カラス其刑ノ宥恕ヲ受ケシ者ヲ第百  
二十六條ニ循ヒ処置ス可シ

第百二十四條 婦ノ現ニ共通ノ罪ヲ犯スラ  
見テ其場ニ於テ婦及ヒ其夫ヲ殺セシ者ハ亦  
其刑ノ宥恕ヲ受ク可シ

第百二十五條 官ノ兵士或ハ公ケノ兵カヲ  
預カル者其特別ノ規則ヲ遵守シテ職務ヲ行  
フニ方リ之レカ襲撃ヲ防ク為メ人ヲ殺シ又

ハ創傷政撃ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ノ宥恕  
ヲ受ク可カラス

第 二百二十六條 人ヲ殺シ又ハ創傷政撃ノ罪  
ヲ犯セシ者其刑ノ宥恕ヲ得タル時ハ輕罪ニ  
就テハ三月ヨリサナカラス六月ヨリ多カラ  
サル時間禁錮ノ刑ニ処セラシ重罪ニ就テハ  
六月ヨリサナカラス三年ヨリ多カラサル時  
間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ但シ法律上ニ輕  
罪ニ就テ其刑ヲ宥恕スル丁ナシト虽モ三月  
以上六月以下ヨリ更ニ輕キ刑ヲ定ムル時ハ

此例ニ非ス

重罪ニ就テハ右刑ノ宥恕ヲ得シ者ヲシテ其  
罪ノ輕重ニ准シ五年ヨリサナカラス十年ヨ  
リ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムル  
丁ヲ得可シ

第 二百二十七條 此一章中ニ記シタル如何ナ  
ル場合ニ於テモセリノ法律ヲ以テ裁判ヲ  
受ク可キ各人ニ就テハ殺害及ヒ創傷政撃ノ  
罪ヲ其法律ニ循テ裁定ス可ク又損害ノ償ハ  
通常法律ニ定ムル規則ニ循テ之ヲ為サシム

可シ

第二百二十八條 何人ニ限ラス人ヲシテ特定

ノ場処ニ金高又ハ物件ヲ持来ラシメ或ハ之

ヲ送ラシムル為メ或ハ其他何事ニ因ラス一

箇ノ約束ヲ行ハシムル為メ書面ヲ用ヒ又ハ

他人ノ傳言ヲ用ヒ死刑又ハ無期ノ徒刑ニ當

ル可キ暴行ヲ為サント脅迫シタル者ハ有期

ノ徒刑ニ処セラル可シ

又右脅迫シタル暴行前ニ記スル所ヨリ更

ニ輕キ時又ハ犯人親シク口上ヲ以テ其脅迫

ヲ為シタル時ハ其犯人一年ヨリサナカラス

三年ヨリサナカラスル時間禁錮ノ刑ニ処セラ

レ且ツ三百<sup>百</sup>ピアストル<sup>百</sup>ヨリサナカラス二千

ピアストル<sup>百</sup>ヨリサナカラスル罰金ヲ言渡サル

可シ

第三章 墮胎ノ罪、偽造ノ飲料ヲ賣ル罪、

買主ノ保証ヲ要セス毒藥ヲ

賣ル罪

第二百二十九條 何人ニ限ラス政撃又ハ其他

ノ暴行ニ因リ故テ懷胎ノ婦ヲ墮胎セシメシ

者ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第二百三十條 何人ニ限ラス藥品ヲ用ヒ又ハ別段ノ方術ヲ用ヒ或ハ之ヲ教示シテ懐胎ノ婦ヲ墮胎セシメシ者ハ其婦ノ承諾ノ有無ヲ問ハス六月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百三十一條 右ノ藥品ヲ用ヒ又ハ右ノ方術ヲ用フルヲ承諾シ或ハ自カラ之ヲ用ヒ墮胎シタル婦ハ亦前條ニ記ズル刑ニ処セラル可シ

第二百三十二條 若シ其犯人内科外科ノ醫師又ハ製藥者タル時ハ有期ノ徒刑ニ処セラル可シ○如何ナル場合ニ於テモ墮胎ヲ為サント試ミ為シタルノミニ於テハ犯罪ノ訴ヲ受ク可カラス

第二百三十三條 何人ニ限ラス人ヲ殺ス可キ質ナレト虽モ人ヲシテ病ニ罹ラシメ又ハ一時労働スル能ハサルニ至ラシム可キ物品ヲ故ラ人ニ附與セシ者ハ一月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラ

ル可シ

第二百三十四條 何人ニ限ラス免許状ヲ得ス

製藥店ヲ開キシ者ハ埃及ノ貨幣十「リール」ヨリサナカラス五十「リール」ヨリマカラサ  
ル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百三十五條 何人ニ限ラス人ノ健康ヲ害

スル混合物ノ入リシ偽造ヲ飲料ヲ賣リ又ハ  
買全ヲシテ規則ニ定メシ保証ヲ為サシムル  
「ナリ毒藥ヲ賣リタル者ハ一週ヨリサナカ  
ラス二年ヨリマカラサル時間禁錮ノ刑ニ処

セラレ且ツ埃及ノ貨幣一「リール」ヨリサナ  
カラス二十五「リール」ヨリマカラサル罰金  
ヲ言渡サシ並ニ右ノ物品ヲ徵收セラル可シ  
○犯人ノ所有シ又ハ其住所ニ在ル偽造ノ飲  
料ハ之ヲ徵收シテ滅却ス可シ

#### 第四章 風俗ヲ亂ス罪

第二百三十六條 暴行ヲ加フルニ非スシテ十

一歳以下ノ幼者ニ對シ猥褻ノ罪ヲ犯シタル  
者ハ六月ヨリサナカラス三年ヨリ多カラサ  
ル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ



第 二百三十七條 暴行ヲ以テ猥褻ノ罪ヲ犯シ

タル者ハ其害ヲ被リシ者ノ何人タルヲ問ハ  
ス有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第 二百三十八條 前二條ノ場合ニ於テ害ヲ被

リシ者ノ教育或ハ照管ヲ為ス可キ者又ハ之  
ヲ指令ス可キ者ノ其罪ヲ犯シ又ハ害ヲ被リ  
シ者ノ僕婢或ハ其教育照管ヲ為シ及ヒ其指  
令ヲ為ス者ノ僕婢其罪ヲ犯シタル時ハ其犯  
人五年ヨリ少ナカラサル時間徒刑ニ処セラ

ル可シ

第 二百三十九條 既ニ成熟ノ齡ニ至リシ婦女

ト婚姻ス可キ約束ヲ以テ之ヲ欺キ其婦女ニ  
對シ猥褻ノ罪ヲ犯シ然ル後ニ婚姻ヲ肯セサ  
ル者ハ其約束ノ証各アリ又ハ本人自カラ其  
約束ヲ為シタル者ヲ陳述シ其証アル時ハ六  
日ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カラサル時間  
禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第 二百四十條 男女ヲ問ハス二十一歳以下ノ

幼者ノ淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナ  
ラシム可キ業ヲ常トシ風俗ヲ乱ス者ハ一月

ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁  
錮ヲ刑ニ処セラル可シ

第二百四十一條 父母又ハ後見人右ノ罪ヲ犯

シタル時ハ六月ヨリ少ナカラス一年半ヨリ  
多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百四十二條 婦ノ姦通ノ罪ハ夫ヨリ之ヲ

告訴ス可ク又夫ノ告訴スル能ハサル時ハ夫  
ノ後見人之ヲ告訴ス可シ

第二百四十三條 姦通ノ罪アル婦ハ三月ヨリ

少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ

刑ニ処セラル可シ然レモ夫其婦ヲ再嫁スル

コトヲ肯スル時ハ其刑ノ效ヲ止ムルコトヲ得可

第二百四十四條 奸夫ハ奸婦ト同シク三月ヨ

リセナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ処セラレ且ツ一萬<sup>圓</sup>ピアストル<sup>ル</sup>ノ罰金

ヲ言渡サル可シ

第二百四十五條 姦通ノ証ハ奸夫ノ自認及ヒ

現行罪犯ノ外其同教人ノ女室ニ居リシコト並

ニ奸夫ノ書状又ハ其自筆ノ各類ニ在リトス

○其他ノ証ハ之ヲ取上ク可カラス

第二百四十六條 夫ノ其家内ニ娼婦ヲ蓄

キ置キ其婦ノ告訴ニ因テ其証ノ頭ハル

、時ハ五百<sup>〇</sup>ピアストルヨリ少ナカラス一萬

<sup>〇</sup>ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル

可シ

第二百四十七條 何人ニ限ラス公ケニ猥褻ノ

罪ヲ犯セシ者ハ三月ヨリ少ナカラス一年ヨ

リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラレ且ツ

百<sup>〇</sup>ピアストルヨリ少ナカラス千<sup>〇</sup>ピアストル

ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百四十八條 男女ヲ問ハス十八歳以下ノ

幼者ニ猥褻ノ行ヲ言掛ケタル者ハ縦令公ケ

ニ之ヲ為サスト雖モ一週ヨリ少ナカラス一

月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル

可シ又其犯人右幼者ノ身体ニ手ヲ掛ケタル

時ハ一月ヨリ少ナカラス三月ヨリ多カラサ

ル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ但シ公ケニ

猥褻ノ罪ヲ犯セシ時其相当ノ刑ニ処セラル

可キ規則ト相酌ル、了ナカル可シ

第五章 法ニ背キテ人ヲ逮捕シ及ヒ禁

錮スル罪、幼年少年ノ者ヲ拐引スル罪

第二百四十九條 何人ニ限ラス相当ナル官吏

ノ指令ナリ且ツ別段ノ法式ニ循ヒ犯罪被告  
人ヲ逮捕ス可キ法律及ヒ規則外ノ場合ニ於  
テ人ヲ逮捕又ハ禁錮シタル者ハ六月ヨリ十  
ナカラス三年ヨリテカラサル時間禁錮ノ刑  
ニ処セラル可シ

第二百五十條 何人ニ限ラス枉ニ人ヲ禁錮ス

ル場所ヲ故ラ貸典ハタル者ハ三月ヨリ十ナ  
カラス三年ヨリテカラサル時間禁錮ノ刑ニ  
処セラル可シ

第二百五十一條 第二百四十九條ニ記シタル

場合ニ於テ官吏ノ着ス可キ礼服ヲ偽リ着シ  
又ハ官名ヲ偽リ述ベ或ハ官吏ノ偽造ノ命令  
畧ヲ示レテ人ヲ逮捕シタル時ハ其犯人有期  
ノ徒刑ニ処セラル可シ○又枉ニ逮捕セシ者  
ヲ殺サント脅迫シ又ハ其身体ヲ痛苦セシメ  
タル時ハ其犯人亦有期ノ徒刑ニ処セラル可

シ

第百五十二條 初生ノ子ヲ他ノ子ト替ヘ又ハ子ヲ産マサル婦ニ子ヲ産ミタリト言掛クル者ハ六月ヨリ少ナカラズ三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百五十三條 初生ノ子ノ出産ヲ隠蔽スルノ罪ヲ犯セシ者ハ亦前条ニ記シタル刑ニ処セラル可シ○若シ其子ノ引渡ヲ求ム可キ權アル者ニ其子ヲ示サス又ハ其子ヲ還サ、ル時ハ其刑期ヲ倍ス可シ

第百五十四條 詐偽又ハ暴行ニ因リ未タ成熟ノ齡ニ至ラサル幼者ヲ拐引セシ者ハ三月ヨリサナカラズ一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第百五十五條 若シ未タ成熟ノ齡ニ至ラサル女ヲ拐引シタル者ハ其犯人有期ノ徒刑ニ処セラル可シ

第百五十六條 其拐引セシ女ニ對シ猥褻ノ罪ヲ犯シタル時ハ其犯人猥褻ノ罪ヲ罰スル刑中ノ至重ノ刑ニ処セラル可シ

第二百五十七條 何人ニ限ラス暴行ヲ以テ既

ニ成熟ノ齡ニ至リシ女ヲ拐引シタル者ハ三月ヨリサナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ○若シ夫アル婦ヲ拐引シタル時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ処セラ

ル可シ  
第二百五十八條 成熟ノ齡ニ至リシト否トヲ

問ハス暴行ヲ以テ婦女ヲ拐引スル犯人ヲ助ケシ者ハ六月ヨリサナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百五十九條 若シ拐引者其拐引セシ女ヲ

相当ノ法式ニ循ヒ娶リタル時ハ之ヲ拐引ノ刑ニ処ス可カラス只双方本人ノ身分ヲ規定スル民法ヲ適用ス可キノミトス但シ此事ニ付テハ「セリ」ノ法律ニ定メシ規則ヲ適用ス可シ

### 第六章 偽証、偽誓ノ罪

第二百六十條 何人ニ限ラス重罪ノ訴訟ニ付

キ其被告人ヲ枉害スル為メ又ハ之ヲ曲庇スル為メ偽証ヲ述ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ処

セラル可シ

第二百六十一條 若シ重罪ノ被告人其偽証ノ  
為メ有期ノ徒刑ヨリ更ニ重キ刑ニ処セラレ  
タル時ハ其偽証ヲ述ヘタル犯人之レト同一  
ノ刑ニ処セラル可シ

第二百六十二條 何人ニ限ラス輕罪又ハ誑誤  
ノ訴訟ニ付キ其被告人ヲ枉害スル為メ又ハ  
之ヲ曲庇スル為メ偽証ヲ述ヘタル者ハ一月  
ヨリ少ナカラス五月ヨリ多カラサル時間禁  
錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百六十三條 民法上ノ事ニ付キ偽証ヲ述  
ヘタル者ハ六月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百六十四條 偽証ヲ述ヘタル者之レカ為  
メ金高又ハ酬謝ヲ受ケ或ハ約束ヲ為シタル  
時ハ其贈遺物又ハ約束高ニ当レル罰金ヲ言  
渡サレ且ツ其贈遺又ハ約束ヲ為シタル者並  
ニ之ヲ受ケタル者ハ共ニ同レク約賄ノ刑ニ  
処セラル可シ

第二百六十五條 脅迫ヲ以テ人ノ真正ナル証

ヲ述フルヲ妨ケ又ハ強制ヲ以テ偽証ヲ述ヘ  
シメタル者ハ其罪ノ輕重ニ准シ偽証ノ罪ヲ  
犯セシ者ノ同一ノ刑ニ処セラル可シ

第二百六十六條 民法上ノ事ニ付キ誓ヲ為ス  
可キノ求ノヲ受ケ又ハ誓ヲ返シ為ヌ可キノ  
求メヲ受ケ偽誓ヲ為シタル者ハ六月ヨリテ  
ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑  
ニ処セラル可シ

第七章 誣訴、証固、秘密漏告ノ罪

第二百六十七條 公ケノ場処或ハ公ケノ集會

場ニ於テ發シタル言詞ニ因リ又ハ印刷シタ  
ルト否トヲ問ハス処ニ貼附シ或ハ分配シ  
タル各紙ニ因リ偽テ刑罰ヲ受ケシム可キ事  
柄ヲ人ニ歸シ又ハ衆庶ノ賤辱ヲ受ケシム可  
キ事柄ヲ人ニ歸シ又ハ惡意ヲ以テ國ノ官吏  
ニ此類ノ事柄ヲ歸シタル者ハ誣訴ノ罪アリ  
ト為ス可シ

平民ニ此類ノ事柄ヲ歸セシ時ハ其事柄ノ有  
無ノ証ヲ立ツルトテ許ルサス

第二百六十八條 誣訴ノ罪ヲ犯セシ本人及ヒ



其日罪人ハ其讒訴ノ重罪タル可キ事柄ヲ人ニ帰スル時ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル其他ノ類ノ事柄ヲ人ニ帰スル時ハ一月ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラル可シ

第二百六十九條 悪意ナク正実ノ意ヲ以テ刑法ニ拠リ罰ス可キ事柄ヲ司法官吏ニ告訴シタル者ハ前條ノ刑ヲ適用ス可カラス

第二百七十條 然レモ悪意詭偽ヲ以テ前條ニ

記シタル類ノ事柄ヲ偽リ告ケシ時ハ縱令其告訴ノ外ニ公ケニ讒訴スルナシトモ其犯人ヲ刑ニ処ス可シ

第二百七十一條 前ニ記スル所ト同一ノ景状ニ於テ人ニ帰スルニ一箇ノ事柄ヲ以テモ只特定ノ不善ヲ帰シ又ハ如何ナル法方ヲ問ハズ人ノ名誉ヲ害スル証固ヲ為ス者ハ二十四時ヨリ少ナカラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セラシ且ツ百<sup>百</sup>ピアストル<sup>ル</sup>ヨリ少ナカラス三百<sup>百</sup>ピアストル<sup>ル</sup>ヨリ多カラサ

ル罰金ヲ言渡サル可シ

第百七十二條 裁判所ニ於テ為ス所ノ并論  
又ハ裁判所へ出シタル局面ニ付キ一方ヨリ  
相手方ニ過失ヲ歸セシ時ハ前二條ニ記シタ  
ル刑ヲ通用ス可カラス只民法上ノ訴訟又ハ  
裁判席取締ノ為メノ訴訟ヲ受クル原由トナ  
ル可キノミナラス

第百七十三條 特定ノ不善ヲ人ニ歸セサル  
誣罔又ハ公ケニ為サ、ル誣罔ノ罪ヲ犯シタ  
ル者ハ二十四時ヨリサナカラス一週ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ処セ、ラシ且ツ二十

ピアストル<sup>可</sup>ヨリサナカラス百<sup>可</sup>ピアストル<sup>可</sup>ヨ  
リ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第百七十四條 内科外科ノ醫師製藥者産婆  
又ハ其他何人ニ限ラス其身分又ハ職業ニ因  
リ人ノ秘密ヲ托セラレシ者法律上ニ其秘密  
ヲ告訴ス可キヲ特定セシ場合ノ外猥リニ其  
秘密ヲ漏告シタル時ハ二十四時ヨリサナカ  
ラス一週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ処  
セラレ且ツ二十<sup>可</sup>ピアストル<sup>可</sup>ヨリサナカラス

埃及  
法律書

刑法草案

五

百<sup>〇</sup>ピアストルヨリ  
ル可シ  
尋カラサル罰金ヲ言渡サ

第八章 盜罪

第二百七十五條 他人ニ屬スル動産ヲ盜ミシ  
罪ヲ名ケ盜罪ト云フ

第二百七十六條 夫婦ノ同居スルト否トヲ問  
ハス夫其婦ノ物ヲ盜ミ或ハ婦其夫ノ物ヲ盜  
ミ又ハ子及ヒ卑屬ノ親其父母及ヒ尊屬ノ親  
ノ物ヲ盜ミ或ハ父母及ヒ尊屬ノ親其子及ヒ  
卑屬ノ親ノ物ヲ盜ミ此時ハ其損失ノ償ヲ為  
ス可キノミトス○前ニ記シタル景状ニ於テ  
其盜罪ヲ助ケタル者又ハ其贓物ヲ全部或ハ